

2025 年 6 月

食料安全保障月報

(第 48 号)



令和 7 年 6 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021 年 6 月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月 1 回、月末を目処に公表します。

2025 年 6 月食料安全保障月報（第 48 号）

目 次

概要編

I	2025 年 6 月の主な動き	1
II	2025 年 6 月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2025/26 年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2025/26 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「中国の主要穀物等の需給動向及び 10 年後の展望」	5

（資料）

1－1～3	穀物等の主要輸出国の生産量（過去 10 年平均との増減比較）	1 1
1－4	穀物等の国際価格の動向	1 4
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 5
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 6
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 8
5	食品小売価格の動向	2 2
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 3
7	FAO 食料価格指数	2 5

今月のコラム

「ベトナムの食料事情：食文化（ベトナム料理）」	2 6
-------------------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2025/26 年度の輸出量は前年度から 0.6%増の見込み
	＜カナダ＞	2025/26 年度の輸出量は前年度から 2.2%減の見込み（AAFC）
	＜豪州＞	2025/26 年度の生産量は史上 3 番目の前年度から 10.4%減の見込み（ABARES）
	＜EU27＞	2025/26 年度の輸出量は前年度から 24.2%増の見込み（EC）
	＜ロシア＞	2025/26 年度の輸出量は前年度から 3.4%増の見込み
	＜ウクライナ＞	2025/26 年度の輸出量は前年度から 3.1%増の見込み
	＜中国＞	2025/26 年度の輸入量は前年度から 50.0%増の見込み

2	とうもろこし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	＜米国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.4%増加する見込み	
	＜ブラジル＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.8%増加する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み	
	＜ウクライナ＞2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.8%増加する見込み	
	＜中国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み	
3	コメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
	＜タイ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減の見込み	
	＜米国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 3.4%減となる見込み	
	＜中国＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み	
	＜インド＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み	
	＜ベトナム＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.4%減少する見込み	
II	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	＜米国＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 0.6%減少する見込み	
	＜ブラジル＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み	
	＜カナダ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.2%減少する見込み (AAFC)	
	＜中国＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.0%減少する見込み	
	(参考 1) 本レポートに使用されている各国の市場年度について (2025/26 年度)・・・	27
	(参考 2) 単位換算表・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	(参考 3) 各国のクロップカレンダー一覧 (主要品目毎) ・・・・・・・・	28

【利用上の注意】

表紙写真：フランスヴァル・ドワーズ県の小麦畑。5 月半ばまで順調に生育していたが、降雨不足の影響で一部の小麦が乾燥状態に陥っており、単収が悪化する可能性がある。(イル・ド・フランス地域圏ヴァル・ドワーズ県 2025 年 6 月 2 日)

(概要編)

I 2025 年 6 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2025/26 年度の作況について、北半球では冬小麦が収穫期、とうもろこし等の作物は生育期を迎えている。なお、南半球では、2024/25 年産の作物が収穫期を迎えている。

2025/26 年度の状況について、品目別にみると、6 月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、カザフスタン、豪州、パキスタンで単収・収穫面積ともに前年度より減少、イランで単収が減少し生産量が減少するものの、EU、インドで単収・収穫面積ともに前年度より増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年 3 月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻前の水準まで低下したものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する 4 者合意（黒海穀物イニシアティブ）については 2023 年 7 月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU 向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、米国、ウクライナで単収・収穫面積ともに前年度より増加、アルゼンチンで収穫面積が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

大豆については、ブラジルで単収・収穫面積ともに増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に穀物、植物油、砂糖価格の下落等により、4 月の 128.7 から、5 月（最新値）は 127.7 と下落（参考：2024 年 5 月 120.5、2023 年 5 月 124.5、2022 年 5 月 158.7、2021 年 5 月 128.4、2020 年 5 月 91.2）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近 5 カ年の平均値の約 9 割の水準で推移。



写真：ブラジルのマット・グロッソ州
の乳熟期を迎えたとうもろこし畑
撮影日：2025 年 6 月 1 日
撮影者：Rafael Rohenkohl



写真：カナダアルバータ州の 4～5 葉
期を迎えた春小麦畑
撮影日：2025 年 6 月 13 日
撮影者：Lynn Dargis

ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 6 月需給報告によれば、2025/26 年度の小麦の生産量は、単収が増加するものの収穫面積は減少することから、前年度より 2 % 減少し 2,300 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに増加することから、前年度より 14 % 増加し 3,050 万トンとなる見込み。2025/26 年度の小麦の輸出量は、期首在庫の増加等を受け、前年度より 3 % 増加し 1,650 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量は、生産量の増加等を受け、前年度より 9 % 増加し 2,400 万トンとなる見込み。

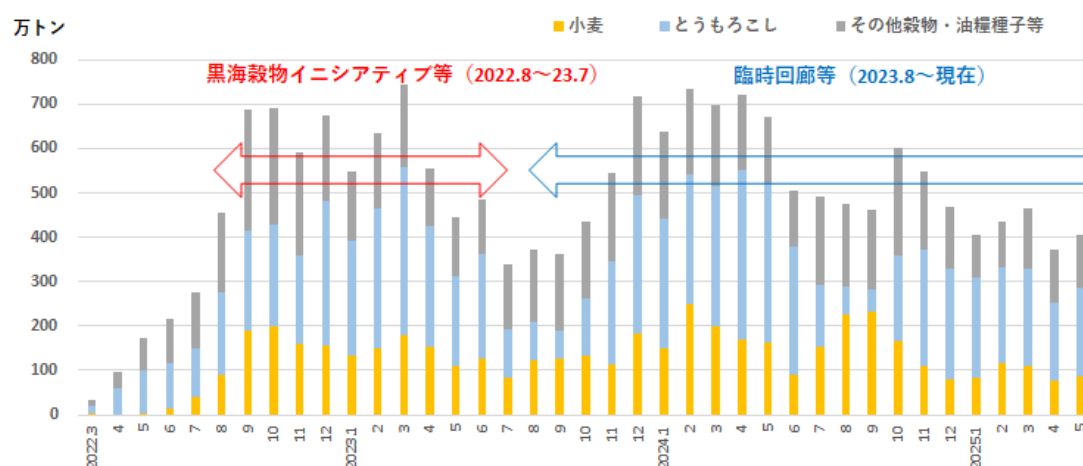
現地情報会社によれば、2025 年 5 月末現在、2025/26 年度の秋播き作物（冬小麦）は産地の大部分で概ね十分な土壌水分量となり、作物は開花期を迎えている。春播き作物（春小麦）の作柄は概ね並みであり、作物は出穂期を迎えている。とうもろこしは栄養生長期（3～9 葉期）を迎えている。

臨時回廊からの輸出状況

2022 年 7 月 22 日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの 4 者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年 8 月以降、オデーサ港等 3 港（オデーサ港、チョルノモルスク港、ピウデンヌイ港）からの輸出が再開したが、2023 年 7 月 17 日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022 年 8 月～23 年 7 月）は、穀物・油糧種子等 6,846 万トン（うち、小麦 1,728 万トン、とうもろこし 2,949 万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023 年 8 月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU 域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022 年 3 月～2025 年 5 月）



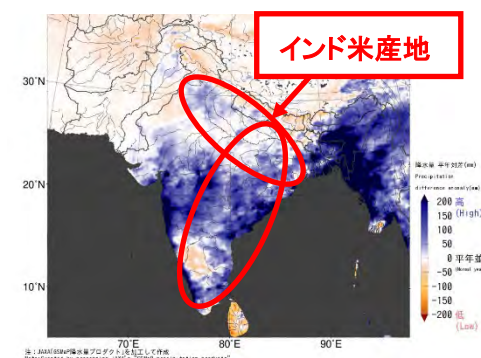
出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 インド：コメの生産量は史上最高を記録する見込み

USDA によれば、2025/26 年度のインドのコメ生産量は史上最高の 1 億 5,100 万トン（精米ベース）と、前月予測から 2 % 上方修正され、前年度から 1 % 増加し、過去 5 年平均を 11 % 上回る見込み。収穫面積は 5,100 万ヘクタールと、前月予測から 1 % 上方修正され、前年度から変わらず、過去 5 年平均を 7 % 上回る。単収は史上最高の 4.44 トン/ヘクタールと、前月予測から 1 % 上方修正され、前年度から 1 % 増加し、過去 5 年平均を 4 % 上回る。今期は南西モンスーンが予想より約 8 日早く到来、5 月末現在の天候条件は良好となっており、例年より早いペースで作付作業が進捗している。

図：インドの降水量（平年対差）
（2025 年 5 月）



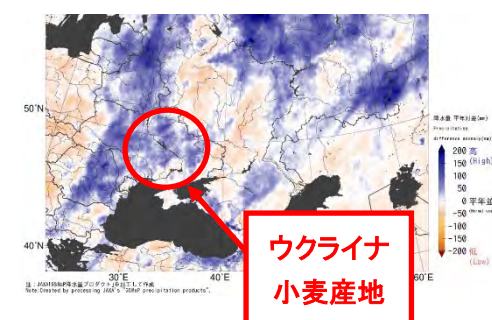
出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

2 ウクライナ：小麦の生産量は収穫面積の減少により低迷する見込み

USDA によれば、2025/26 年度のウクライナの小麦生産量は 2,300 万トンと、前月予測から変わらず、前年度から 2 % 減少する見込み。単収は 4.06 トン/ヘクタールと、前月予測から変わらず、前年度から 2 % 増加する見込み。収穫面積は 500 万ヘクタールと前月から変わらず、前年度から 4 % 減少する見込み。なお、紛争地帯における農業の状況に関する公式で信頼できるデータが存在しないため、ウクライナ全体の状況は反映していない。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024 年 12 月 2 日現在、冬小麦の作付面積は約 450 万ヘクタールとなっている。2025 年 3 月 3 日現在、春小麦の作付面積は 20 万ヘクタールが見込まれ、同年 5 月 29 日現在、春小麦の作付進捗率は 95 % となっている。今期は冬季に乾燥型の天候に見舞われたが、その後天候は改善し、5 月には小麦産地の大部分で十分な降雨に恵まれた。作物は現在良好な気候条件のもと、開花期を迎えている。

図：ウクライナの降水量（平年対差）
（2025 年 5 月）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

3 スペイン：小麦の生産量は豊富な降雨に恵まれ増加する見込み

USDA によれば、2025/26 年度のスペインの小麦生産量は 820 万トンと、前月予測から 7 % 上方修正され、前年度から 8 % 増加し、過去 5 年平均を 21 % 上回る。収穫面積は 200 万ヘクタールと、前月予測から変わらず、前年度から 4 % 増加し、過去 5 年平均とほぼ同水準となっている。単収は 4.05 トン/ヘクタールと、前月予測を 7 % 上回り、前年度から 4 % 増加し、過去 5 年平均を 21 % 上回る。冬小麦産地では 2 期連続で降水量が平年を上回り、生産量と単収の増加に寄与している。スペインの小麦生産量が EU の生産量に占める割合はわずか 5 % であるが、同国南部のアンダルシア州で栽培されるデュラム小麦の生産量は、EU の生産量の 10 % を占めている。

図：スペインの降水量（平年対差）
（2025 年 5 月 1～15 日）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

II 2025 年 6 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、5月末、190ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、ロシア・ウクライナの対立激化や降雨過多による米国産冬小麦の柄柄懸念等を受けて200ドル/トン台半ばまで上昇した。その後、北半球における冬小麦の収穫開始や米国産冬・春小麦の作柄改善等を受けて190ドル/トン台半ばまで下落したものの、大豆や原油相場の高騰等を受けて上昇し、6月中旬現在、190ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、5月末、170ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、南米の豊作見通しや米国の良好な天候を受けて170ドル/トン台前半まで下落したものの、ブラジル産及び米国産の輸出需要の増加や、米国のバイオ燃料混合基準発表による大豆価格の高騰等を受けて上昇し、6月中旬現在、170ドル/トン台半ばで推移。

コメは、5月末、440ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、アジアの主要市場における需要減退やインド産米等との競合を受け、440ドル/トン台前半まで下落し、6月中旬現在、430ドル/トン台前半で推移。

大豆は、5月末、380ドル/トン台半ばで推移。6月に入り、レアル高や米中首脳会談による貿易関係改善への期待感等から380ドル/トン後半まで上昇した。その後、米国の良好な天候や作柄改善等を受けて380ドル/トン前半まで下落したものの、米国のバイオ燃料混合基準引上げ発表等を受けて上昇し、6月中旬現在、390ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2025/26 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より2.0%増の29.01億トン。消費量は、前年度より1.3%増の29.13億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り25.8%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、29.01億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、29.13億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで減少も、小麦、とうもろこしで増加し、穀物全体で増加し、5.14億トンの見込み。

期末在庫量は、7.53億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は6月のUSDA「PS&D」による)

IV 2025/26 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.92億トン。消費量は前年度を上回り6.88億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加するものの、期末在庫率は前年度を下回る21.0%となる見込み。

(注：数値は6月のUSDA「PS&D」等による)

V 今月の注目情報: 中国の主要穀物等の需給動向及び10年後の展望

2025年4月20、21日、中国農業農村部は中国農業展望大会を開催し、今後10年間の農業を展望する「中国農業展望報告（2025－2034）」を発表した。同報告から、中国の主要穀物等について、2024/25年度の需給動向及び10年後の展望をまとめた。

注：文中の「2024/25 年度」等は市場年度で、中国のとうもろこし及び大豆は 2024 年 10 月から 2025 年 9 月、小麦及びコメは 2024 年 7 月から 2025 年 6 月。（品目別需給編参照）。

1 主要穀物及び大豆の生産動向・展望

（1）小麦

「中国農業展望報告（2025－2034）」（2025.4）（以下、「展望報告」という。）によれば、小麦は中国における主要穀物の1つであり、近年、小麦の生産量は国内穀物総生産量の約20%を占める。2024年の小麦生産量は1億4,010万トンと、前年から2.6%増加した。これは、生育期間を通じて作物の生長に適した天候に恵まれたことや、単収を向上させる技術や関連政策の効果が顕著に表れたことから、単収が5.94トン/ヘクタールと、前年度から2.7%増加したことによる。

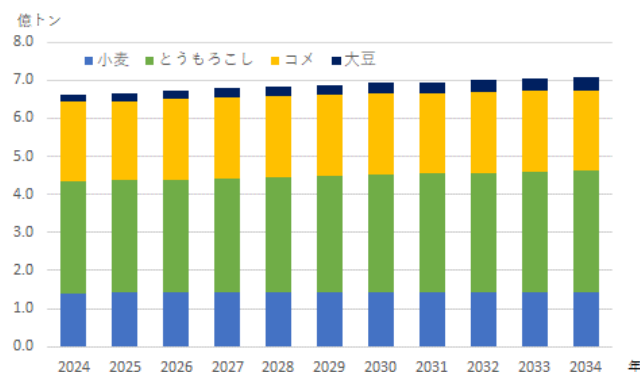
2025年の生産量は1億4,129万トンと、前年から0.9%増加する見込み。これは、作付面積が2,367万ヘクタールと前年から0.3%増加するとともに、単収が5.97トン/ヘクタールと前年から0.5%増加することによる。2029年の生産量は1億4,294万トンと、基準期間（2022年から2024年の3年間の平均値、以下同様）比3.5%増。2034年の生産量は1億4,340万トンと基準期間比526万トン増と予測される（図2）。

（2）とうもろこし

展望報告によれば、2024年のとうもろこし生産量は2億9,492万トンと、4年連続で過去最高を更新した。これは、生産補助金や高規格農地整備等の政策に加え、飼料用及び工業用加工需要の増加、栽培技術の向上により、作付面積が4,474万ヘクタールと前年から1.2%増加するとともに、単収が6.59トン/ヘクタールと前年から0.9%増加したことによる。

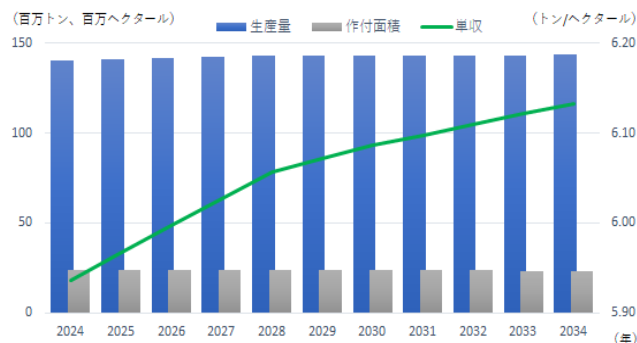
2025年の生産量は2億9,538万トンと前年から0.2%増加する見込み。これは、作付面積は

図1 中国の主要穀物・大豆生産量の実績及び予測



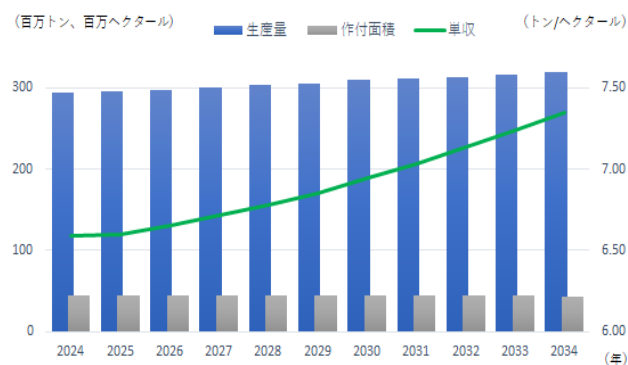
出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

図2 中国の小麦の生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

図3 中国のとうもろこしの生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

4,473 万ヘクタールと前年から 0.02%減少するものの、単収が 6.60 トン/ヘクタールと前年から 0.2%増加することによる。2029 年の生産量は 3 億 588 万トンと基準期間比 4.8%増。2034 年の生産量は 3 億 2,015 万トンと基準期間比 9.7%増と予測される（図 3）。

（3）コメ

展望報告によれば、コメは中国にとって主要食糧の 1 つであり、食糧消費量の 60%以上を占める。2024 年のコメ生産量は 1 億 4,528 万精米トン（以下「トン」という。）と、前年から 0.5%増加した。これは、政府がコメの最低買取価格の引上げや、農地地力保護補助金及びコメ生産者補助金の継続実施等、農家のコメ生産への意欲向上を目的とした多面的な施策を講じたことにより、3 年連続で減少していた作付面積が、4 年ぶりに増加に転じたことによる。また、単収も 7.16 粍トン/ヘクタールと前年から 0.3%増加した。

2025 年の生産量は 1 億 4,601 万トンと前年から 0.5%増加する見込み。これは、作付面積は 2,900 万ヘクタールと前年から 0.02%減少するものの、単収が 7.20 粍トン/ヘクタールと前年から 0.6%増加することによる。2029 年の生産量は 1 億 4,848 万トンと基準期間比 2.2%増。2034 年の生産量は 1 億 4,690 万トンと基準期間比 1.1%増と予測される（図 4）。

（4）大豆

展望報告によれば、2024 年の大豆生産量は 2,065 万トンと前年から 0.9%減少した。これは、政府の単収向上プロジェクトの実施により、単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、主産地の黄淮地域で干ばつに見舞われたことから、作付面積が 1,033 万ヘクタールと前年から 1.4%減少したことによる。

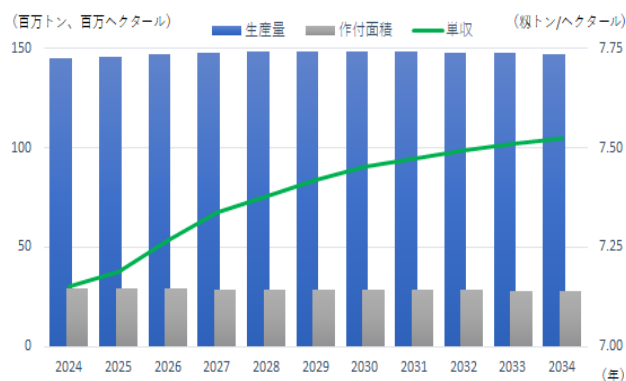
2025 年の生産量は 2,117 万トンと前年から 2.5%増加する見込み。これは、作付面積が 0.1%、単収が 2.8%、前年より増加することによる。2029 年の生産量は 2,610 万トンと基準期間比 26.8%増。2034 年の生産量は 3,452 万トンと基準期間比 67.7%増と予測される（図 5）。

2 主要穀物及び大豆の消費動向・展望

（1）小麦

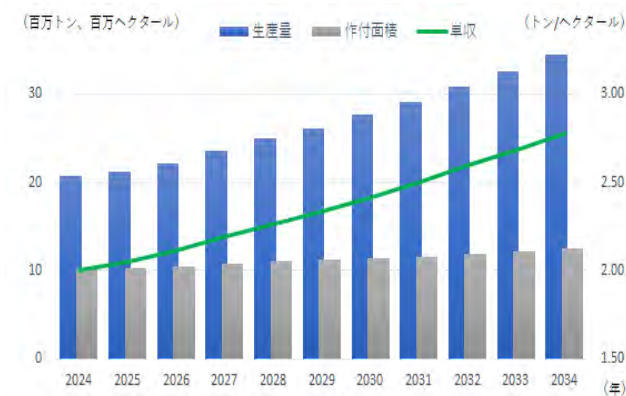
展望報告によれば、2024 年の小麦消費量は 1 億 3,371 万トンと前年から 8.9%減少した。う

図 4 中国のコメの生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

図 5 中国の大豆の生産量、作付面積、単収の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

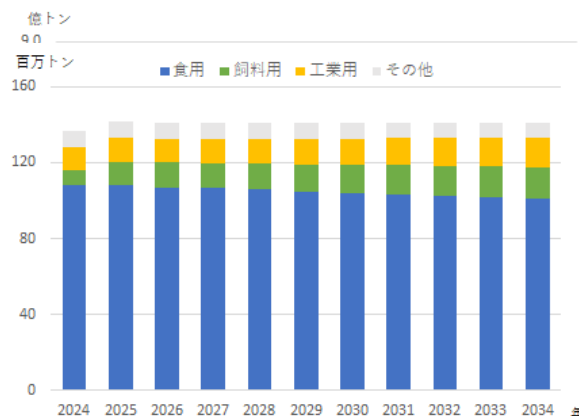
ち、食用消費量は8,995万トンと前年から0.6%減少した。これは、経済発展と所得水準の上昇に伴い国民の食生活が多様化し、1人当たりの食用消費量が減少していることに加え、人口減少、高齢化の進行等の要因が重なったことによる。飼料用消費量は1,800万トンと、前年から45.5%減少した。これは、2023年に小麦とうもろこしの価格差が縮小し、一部期間では価格逆転現象が起きたことに加え、規格外小麦が飼料用消費に回されたことから、同年の小麦の飼料量消費が大幅に増加したものの、2024年には再び小麦とうもろこしの価格差が拡大し、小麦の飼料用消費が減少したことや、小麦の品質が向上し規格外小麦が減少したことによる。工業用消費量は1,450万トンと前年から4.7%増加した。

2025年の消費量は1億3,690万トンと、前年から2.4%増加する見込み。2029年は1億3,916万トンと、基準期間比1.2%増。2034年は1億4,185万トンと基準期間比0.3%増と予測される。食用消費量は緩やかな減少傾向となる一方、飼料用消費量は増加傾向となる見込み。これは、国民の畜産物消費量の増加に伴い、飼料需要が増加すると見込まれるため。工業用消費量についても増加傾向となる見込み。小麦でん粉は工業原料として、食品、製薬、繊維、製紙等の分野で広く利用されており、需要が持続的に増加すると見込まれる。また、グルテン粉はグルテン、焼き麴、代替肉等の食品加工に利用され、これら食品の人気の高まっていることによる（図7）。

（2）とうもろこし

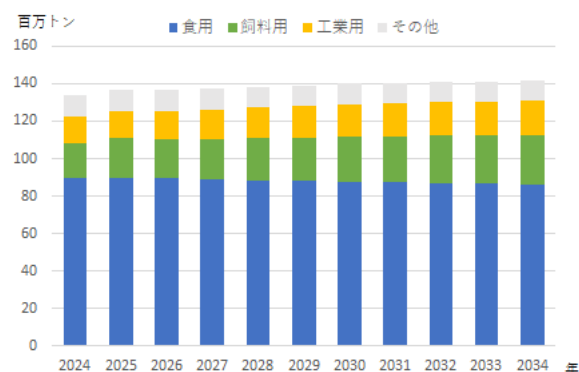
展望報告によれば、2024年のとうもろこし消費量は3億1,753万トンと前年から3.1%増加した。うち、飼料用消費量は2億2,000万トンと前年から2.3%増加した。これは、とうもろこし価格の下落に伴い、小麦・コメ等の飼料用消費量が減少し、とうもろこしの消費割合が増加したことによる。工業用消費量は7,650万トンと前年から6.3%増加した。これは、とうもろこし価格の下落に加え、生分解性プラスチックや燃料

図6 中国の主要穀物・大豆消費量の実績及び予測



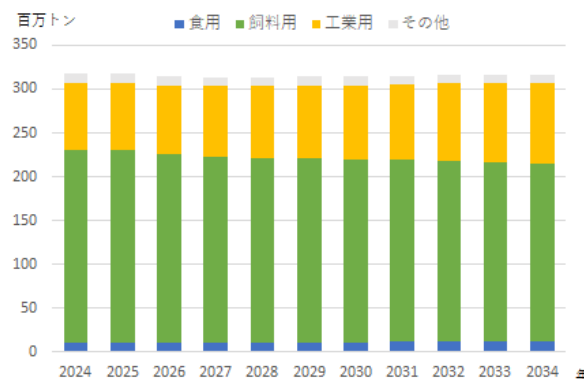
出典：中国農業展望報告（2025～2034）をもとに農林水産省で作成

図7 中国の小麦の用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025～2034）をもとに農林水産省で作成

図8 中国のとうもろこしの用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025～2034）をもとに農林水産省で作成

エタノール等低炭素製品の生産量が増加したこと等による。

2025年の消費量は3億1,788万トンと前年から0.1%増加する見込み。2029年は3億1,395万トンと、基準期間比0.4%増。2034年は3億1,551万トンと基準期間比0.9%増と予測される。飼料用消費量は畜産物単位当たりの飼料消費量の減少に伴い、緩やかに減少すると予測される。一方、工業用消費量は加工産業の発展に伴い増加傾向となる見込み（図8）。

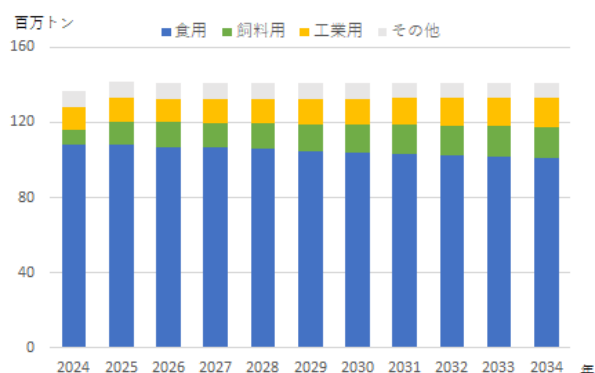
（3）コメ

展望報告によれば、2024年のコメ消費量は1億3,664万トンと前年から4.9%減少した。うち、食用消費量は1億815万トンと前年から0.7%減少した。これは、都市化の進展や国民の食生活の変化や高齢化の加速、総人口の減少等による。工業用消費量は1,189万トンと、米粉やビーフンなどの加工食品需要が旺盛なことから、前年から0.8%増加した。

2025年の消費量は1億4,151万トンと前年から3.6%増加する見込み。2029年は1億4,086万トンと基準期間比1.5%減、2034年は1億4,120万トンと基準期間比1.3%減と予測される。

食用消費量は、徐々に減少すると予測される。一方、工業用消費量は、ビーフン・米粉市場の持続的な成長と、マクロ経済回復に伴う酒造業の回復、コメの高付加価値加工産業が拡大すること等から増加すると見込まれる（図9）。

図9 中国のコメの用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

（4）大豆

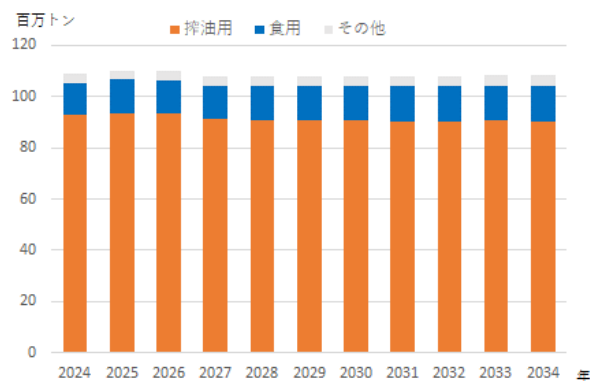
展望報告によれば、中国国内では、国産大豆は主に食用、輸入大豆は主に飼料用・油糧用として消費されている。2024年の大豆の消費量は1億884万トンと前年から0.1%減少した。

うち、搾油用消費量は9,266万トンと総消費量の85.1%を占め、前年比0.1%減。これは、養豚産業の生産能力回復に伴い飼料需要が増加したものの、飼料中の大豆粕使用量を減らす取り組みが進み、飼料中の大豆粕の割合が0.5%減少したことによる。食用消費量は1,260万トンと総消費量の11.6%を占め、前年とほぼ横ばいで推移。

2025年の消費量は1億1,024万トンと前年から1.3%増加する見込み。2029年は1億789万トンと基準期間比0.8%減。2034年は1億850万トンと基準期間比0.3%減と予測される。

搾油用消費は減少傾向が見込まれる。大豆圧搾後にできる大豆粕は、養豚を中心とする畜産の飼料として消費されるが、養豚の生産能力の回復及び価格の上昇は、短期的には搾油用消費量を小幅に押し上げる可能性があるが、長期的には養豚施設の大規模化や防疫水準の向上によ

図10 中国の大豆の用途別消費量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

り、飼料用の需要は安定的に推移すると見込まれる。その一方で、飼料用大豆粕の減量代替の取り組みが本格的に進み、大豆粕の需要は徐々に減少すると見込まれる。一方、食用消費はわずかな増加傾向が見込まれる。所得水準の上昇に伴い、健康食への関心が高まることで、大豆製品の食事に占める割合は増加傾向にあるが、総人口の減少や高齢化の進展等の要因により、食用消費の伸びが抑制されると見込まれる（図 10）。

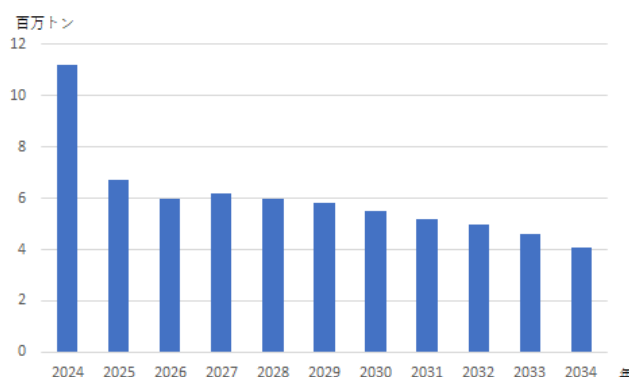
3 主要穀物及び大豆の輸入動向・展望

（1）小麦

展望報告によれば、2024 年の小麦及び小麦製品（以下「小麦」という。）の輸入量は 1,118 万トンと前年から 7.6%減少した。これは、2024 年は国内外の小麦価格は全体的に下落傾向となったが、国際相場の下落幅が国内価格の下落幅を下回り、輸入小麦の優位性が縮小したことや、国産小麦の豊作と国内消費の減少による需給の緩和により、輸入小麦への需要が低下したことによる。国別には、豪州（輸入量シェア 30.0%）、カナダ（同 22.6%）、フランス（同 20.6%）、米国（同 17.0%）の順。

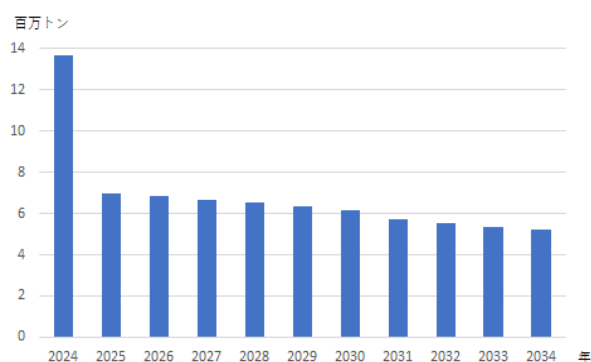
2021 年以降、国内の高品質小麦及び飼料用小麦の需要増及び輸入小麦の価格優位性により、小麦輸入量は 4 年連続で関税割当数量（963.6 万トン）を超過する状況が継続していた。しかしながら、今後 10 年間は、小麦の飼料代替需要の減少や、国内の高品質小麦供給量の増加に伴い、小麦輸入量は減少傾向となると予想される。2025 年の小麦輸入量は 670 万トンと前年から 40.1%減少する見込み。2029 年は 580 万トンと基準期間比 47.7%減、2034 年は 410 万トンと基準期間比 69.8 万トン減と予測される（図 11）。

図 11 中国の小麦輸入量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

図 12 中国のとうもろこし輸入量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

（2）とうもろこし

展望報告によれば、2024 年のとうもろこし輸入量は 1,364 万トンと、国内の供給が安定し価格が急激に下落したことから、前年から 49.7%減少する見込み。国別には、ブラジル（輸入量シェア 47.4%）、ウクライナ（同 33.1%）、米国（同 15.2%）の順。

2025 年のとうもろこし輸入量は 700 万トンと前年から 48.7%減少する見込み。2029 年は 633 万トンと基準期間比 69.0%減、2034 年は 520 万トンと基準期間比 74.5%減と予測される。国内のとうもろこし生産量の増加に伴い、輸入需要は減少傾向で推移すると見込まれる（図 12）。

（3）コメ

展望報告によれば、2024 年のコメ輸入量は 166 万トンと前年から 37.1%減少した。これは、

コメの国際価格が国内価格を上回ったほか、2年連続の豊作により国内のコメ供給量が増加したことによる。国別には、ミャンマー（輸入量シェア 34.0%）、タイ（同 28.1%）、ベトナム（同 17.0%）、パキスタン（同 9.6%）、カンボジア（同 5.7%）の順。

2025 年のコメ輸入量は 200 万トンと前年から 20.4%増加する見込み。これは、2025 年はコメの国際価格が下落傾向で推移し、輸入米の価格が国内価格を下回るとみられ、輸入量が増加すると見込まれることによる。2029 年は 227 万トンと基準期間比 34.9%減、2034 年は 260 万トンと基準期間比 25.5%減と予測される。今後も輸入米の価格が国内価格を下回るとみられるため、コメの輸入量は増加傾向で推移するが、国産米の品質が向上するにつれ、海外の優良米に対する需要は限定的となり、輸入量は基準期間の水準を下回ると見込まれる（図 13）。

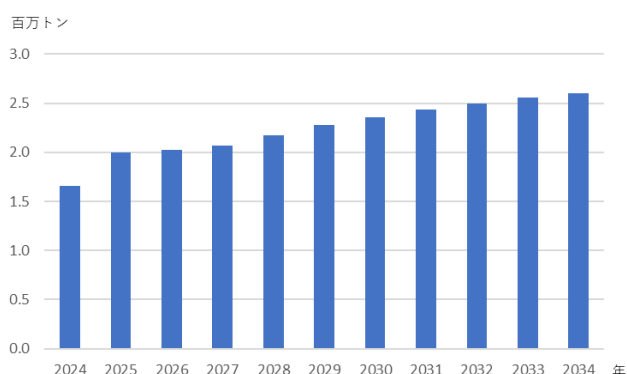
（4）大豆

展望報告によれば、2024 年の大豆輸入量は 1 億 503 万トンと、国際価格の大幅な下落が輸入の急増を促し、前年から 6.5%増加する見込み。国別にはブラジル（輸入量シェア 71.1%）、米国（同 21.1%）、アルゼンチン（同 3.9%）、ウルグアイ（同 1.9%）、カナダ（同 1.2%）、ロシア（同 0.6%）で、ブラジル、米国、アルゼンチンからの輸入量が全体の 96.0%を占めた。

2025 年の大豆輸入量は 9,700 万トンと、前年から 7.6%減少する見込み。2029 年は 8,528 万トンと基準期間比 13.2%減、2034 年は 7,903 万トンと基準期間比 19.6%減と予測される。中国の大豆輸入は主に搾油用であり、搾油用需要の減少と国内生産の増加に伴い、大豆輸入量は減少すると見込まれる（図 14）。

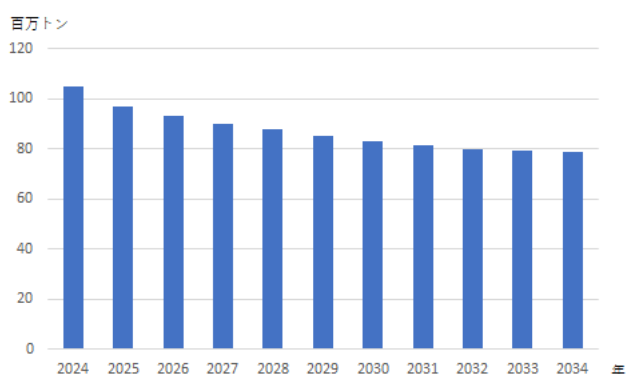
2025 年、中国政府は米国による関税引き上げ措置に対し一連の対抗策を打ち出している。短期的には米国産大豆の輸入コストが増加し、米国からの輸入量が減少する見込みである。長期的には、米国産大豆への依存度をさらに低下させるとともに、南米諸国や「一带一路」諸国からの輸入比率を高める方針である。

図 13 中国のコメ輸入量の実績及び予測



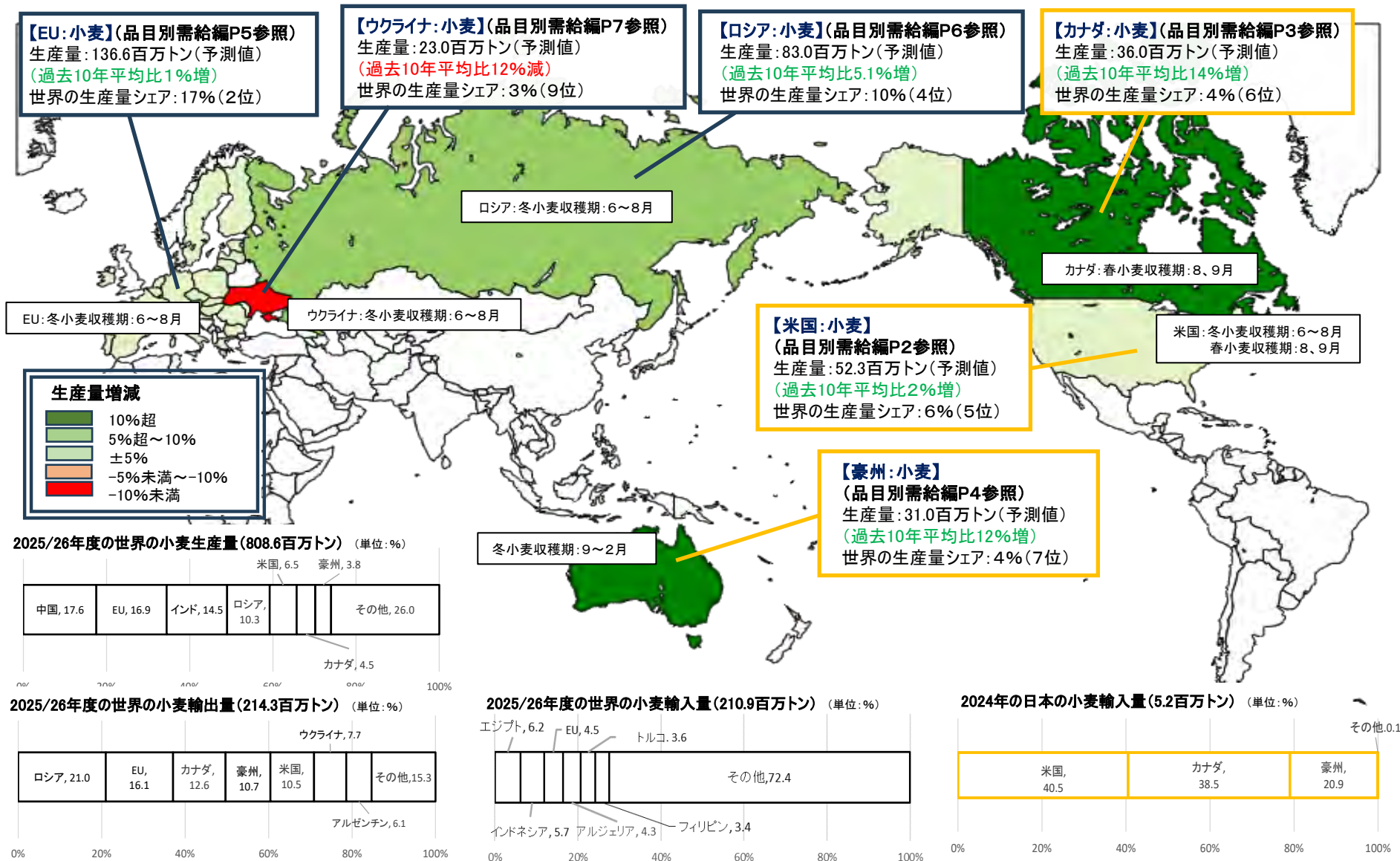
出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

図 14 中国の大豆輸入量の実績及び予測



出典：中国農業展望報告（2025－2034）をもとに農林水産省で作成

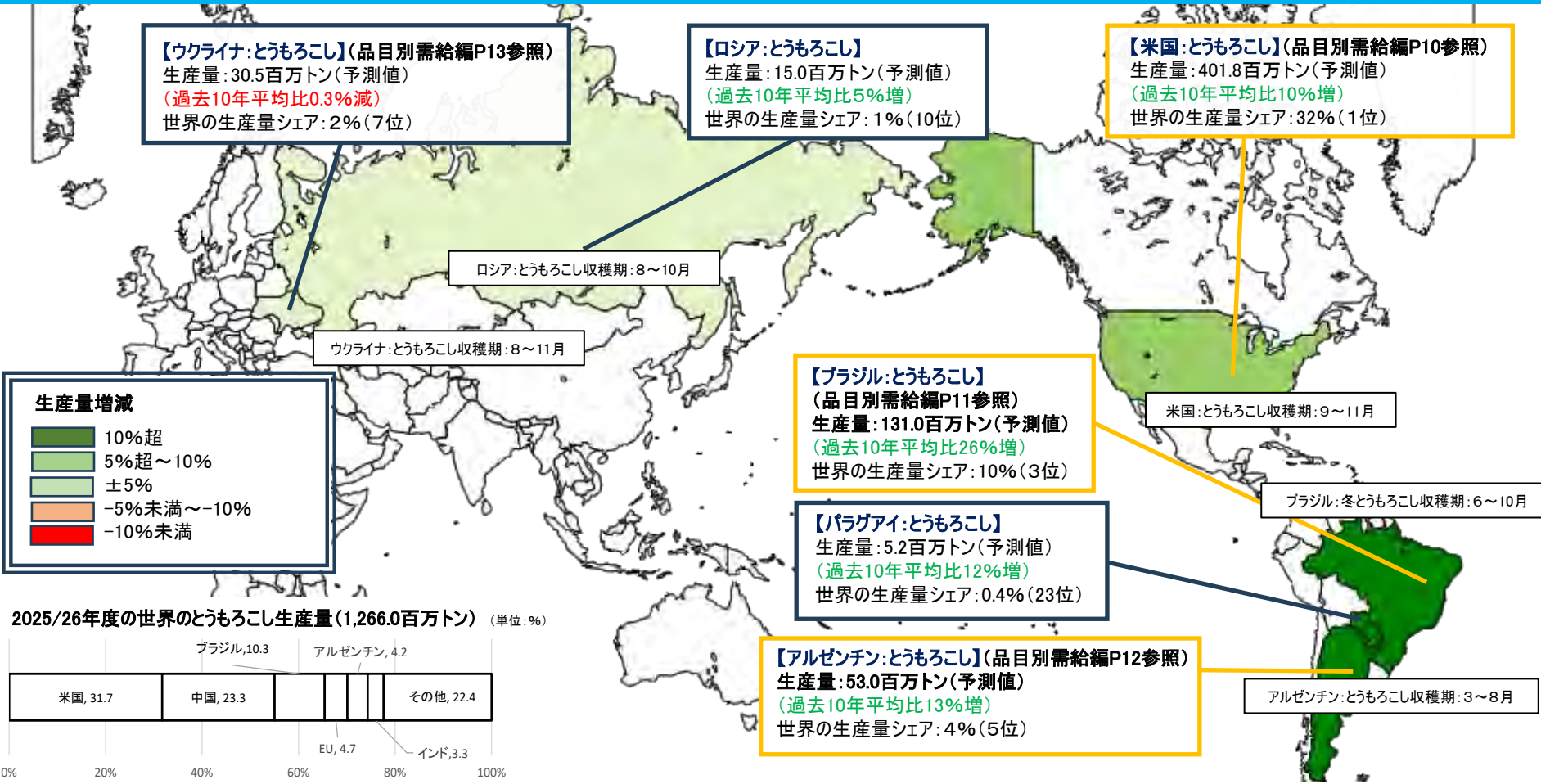
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(6月版)



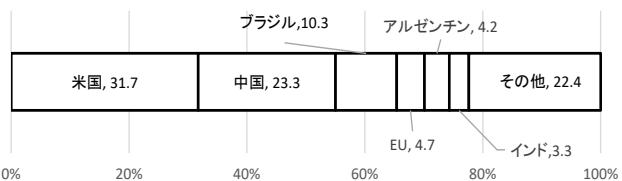
- 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

出典:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」及び「PS&D」(2025.6)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

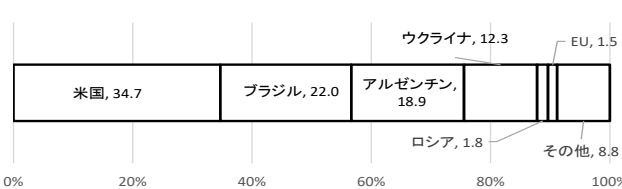
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(6月版)



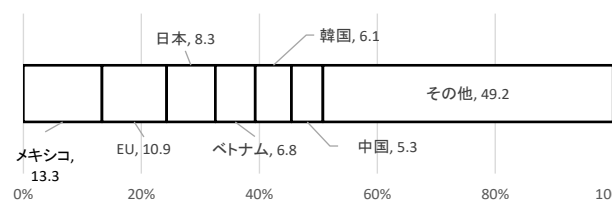
2025/26年度の世界のとうもろこし生産量(1,266.0百万トン) (単位:%)



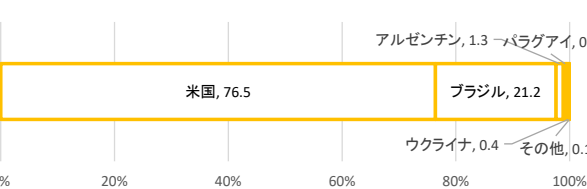
2025/26年度の世界のとうもろこし輸出量(195.8百万トン) (単位:%)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸入量(187.5百万トン) (単位:%)



2024年の日本のとうもろこし輸入量(15.3百万トン) (単位:%)



○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

出典:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」及び「PS&D」(2025.6)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(6月版)

【ウクライナ:大豆】

生産量:6.6百万トン(予測値)
(過去10年平均比48%増)
世界の生産量シェア:2%(9位)

【カナダ:大豆】(品目別需給編P24参照)

生産量:7.0百万トン(予測値)
(過去10年平均比3%増)
世界の生産量シェア:2%(8位)

【米国:大豆】(品目別需給編P22参照)

生産量:118.1百万トン(予測値)
(過去10年平均比3%増)
世界の生産量シェア:28%(2位)

カナダ:大豆収穫期:9~11月

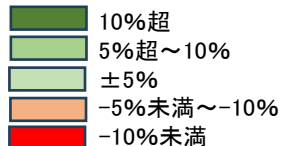
米国:大豆収穫期:9~11月

ブラジル:大豆収穫期:2~4月

アルゼンチン:大豆収穫期:3~7月

ウクライナ:大豆収穫期:8~10月

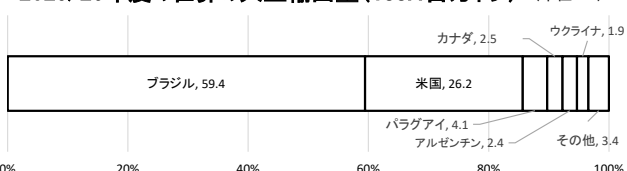
生産量増減



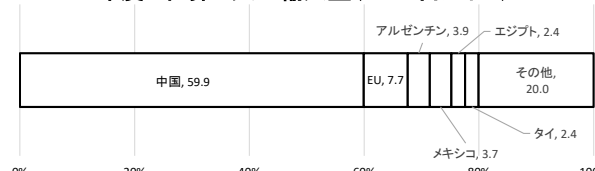
2025/26年度の世界の大豆生産量(426.8百万トン) (単位: %)



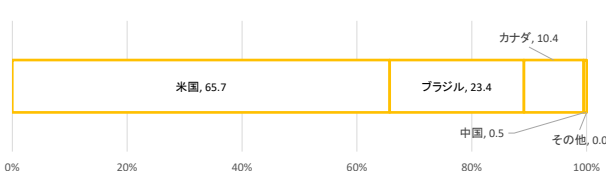
2025/26年度の世界の大豆輸出力(188.4百万トン) (単位: %)



2025/26年度の世界の大豆輸入量(186.9百万トン) (単位: %)



2024年の日本の大豆輸入量(3.17百万トン) (単位: %)



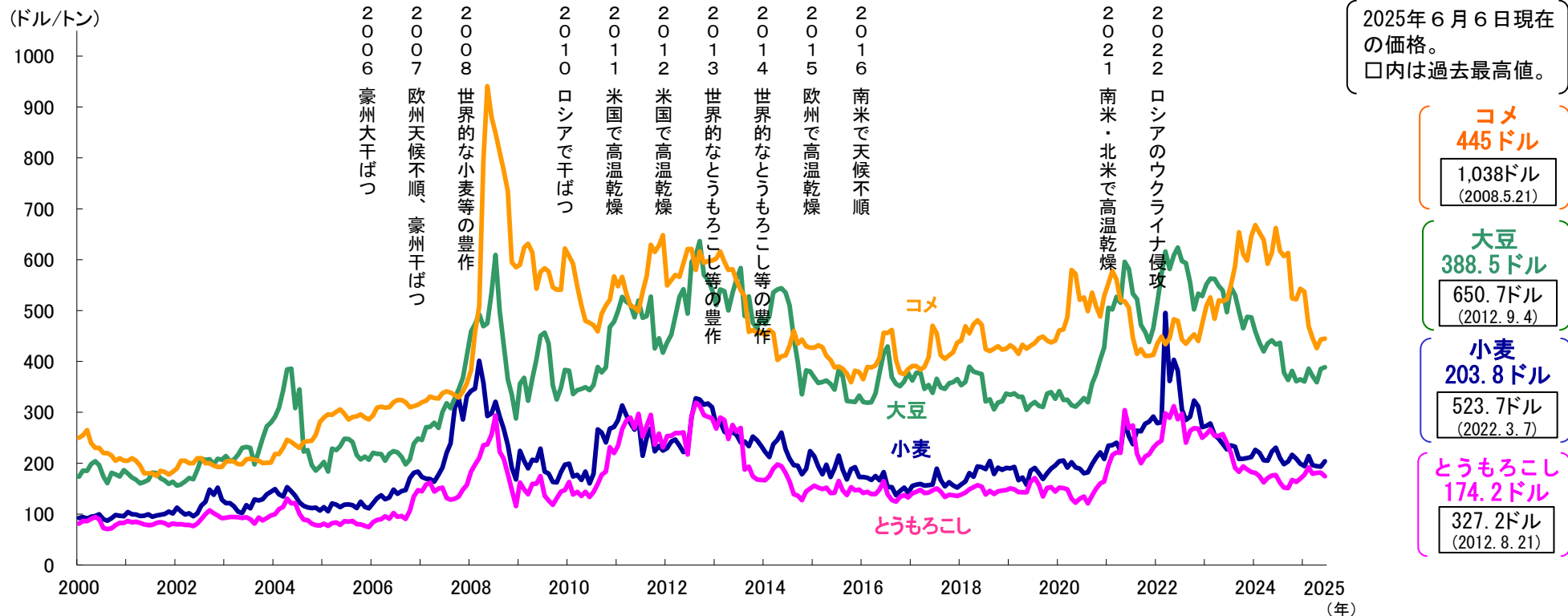
- 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

出典:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」及び「PS&D」(2025.6)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1－4 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要等により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



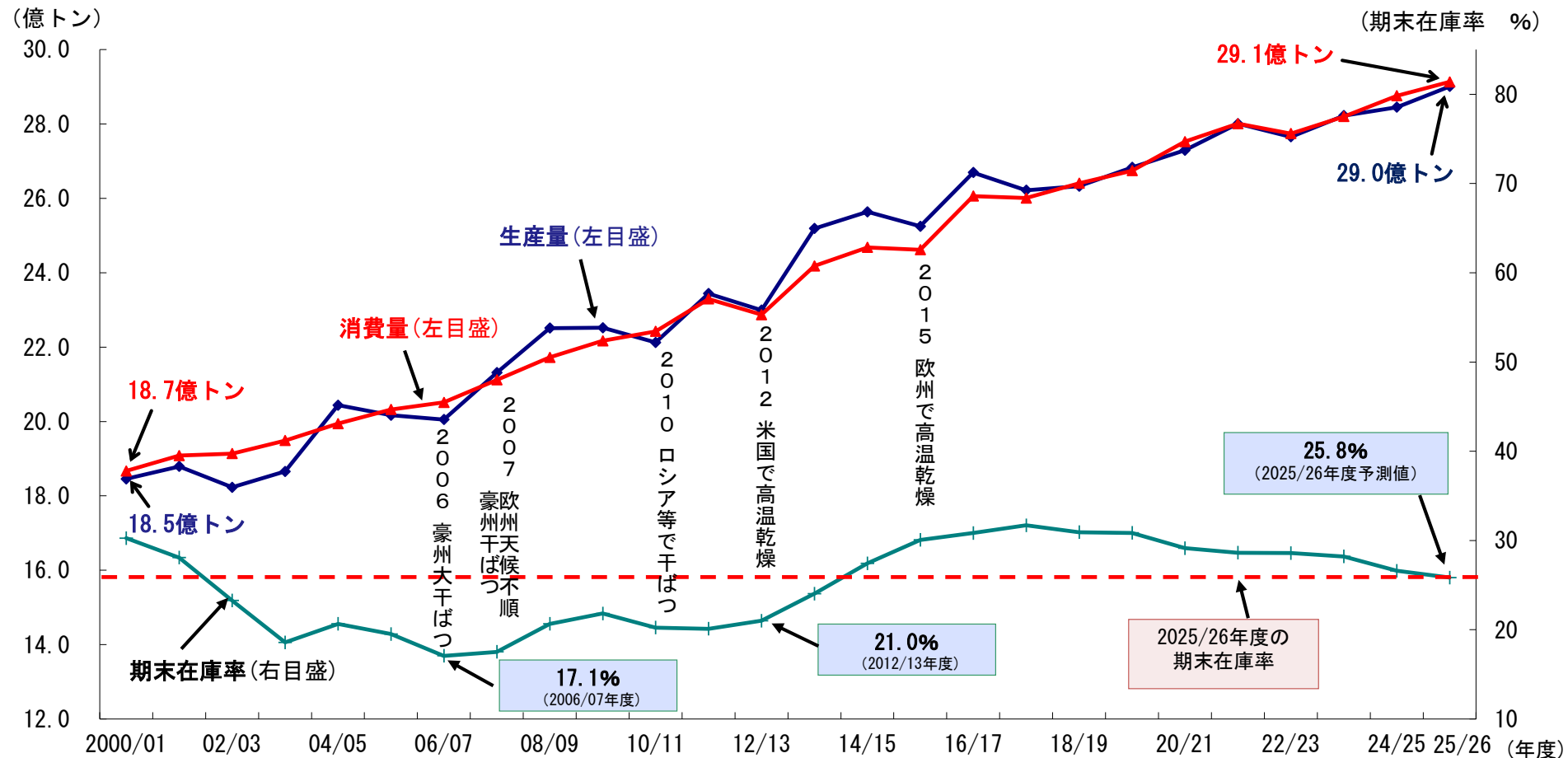
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、25.8%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

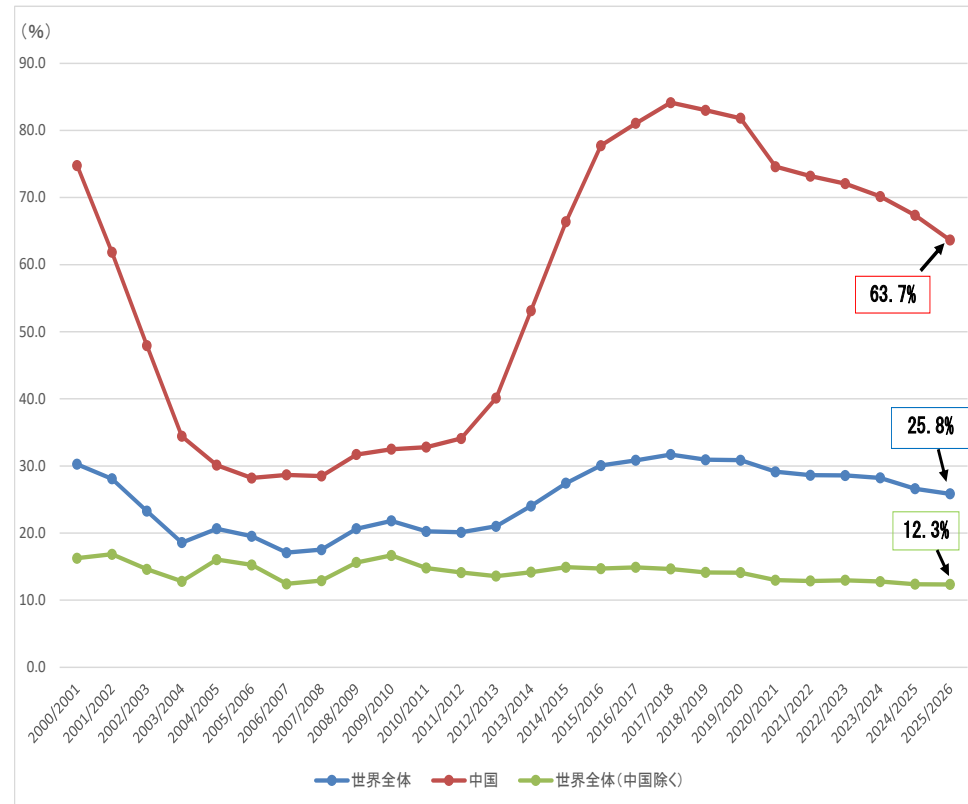


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 2025)、「PS&D」

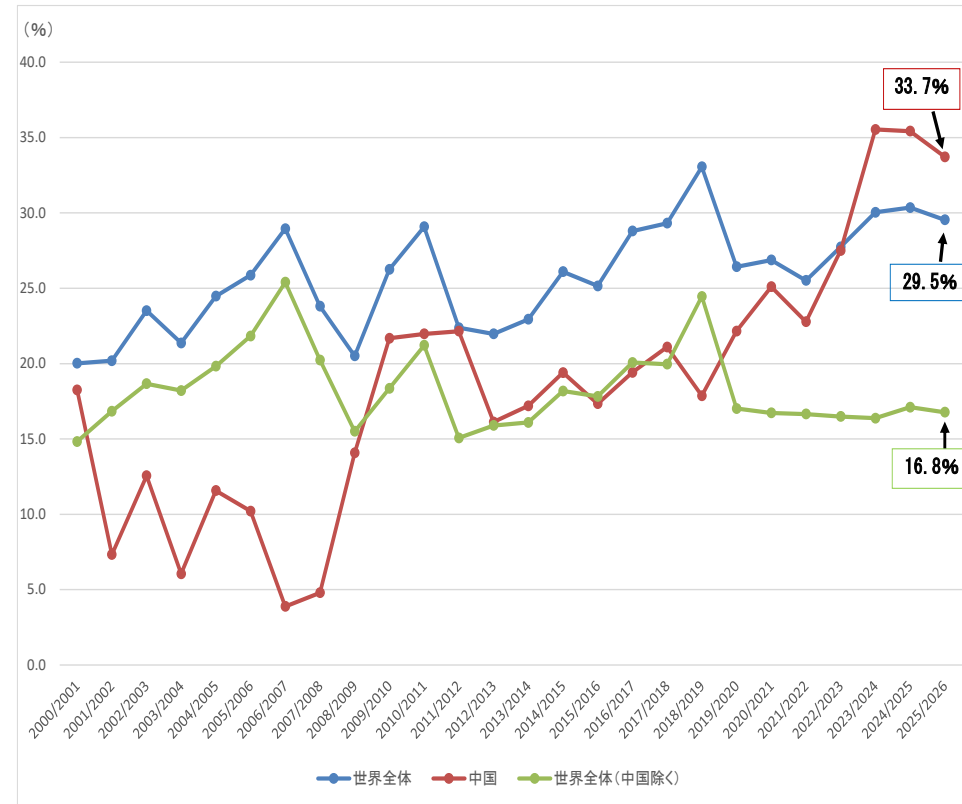
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(June 12, 2025)

注：1)穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

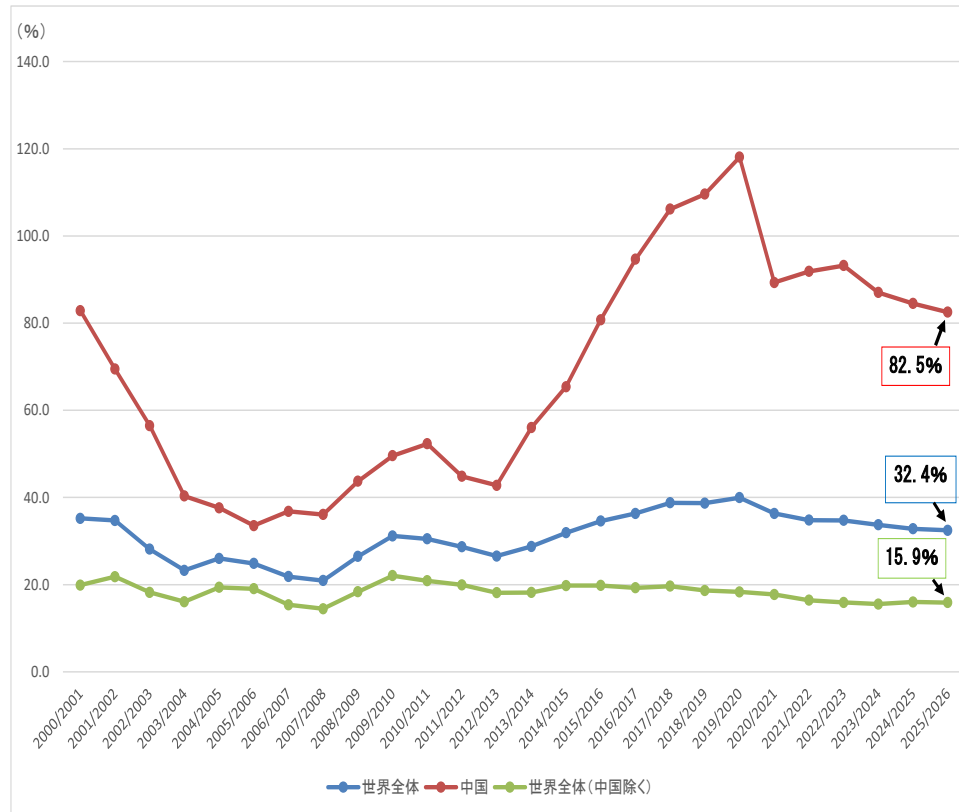
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

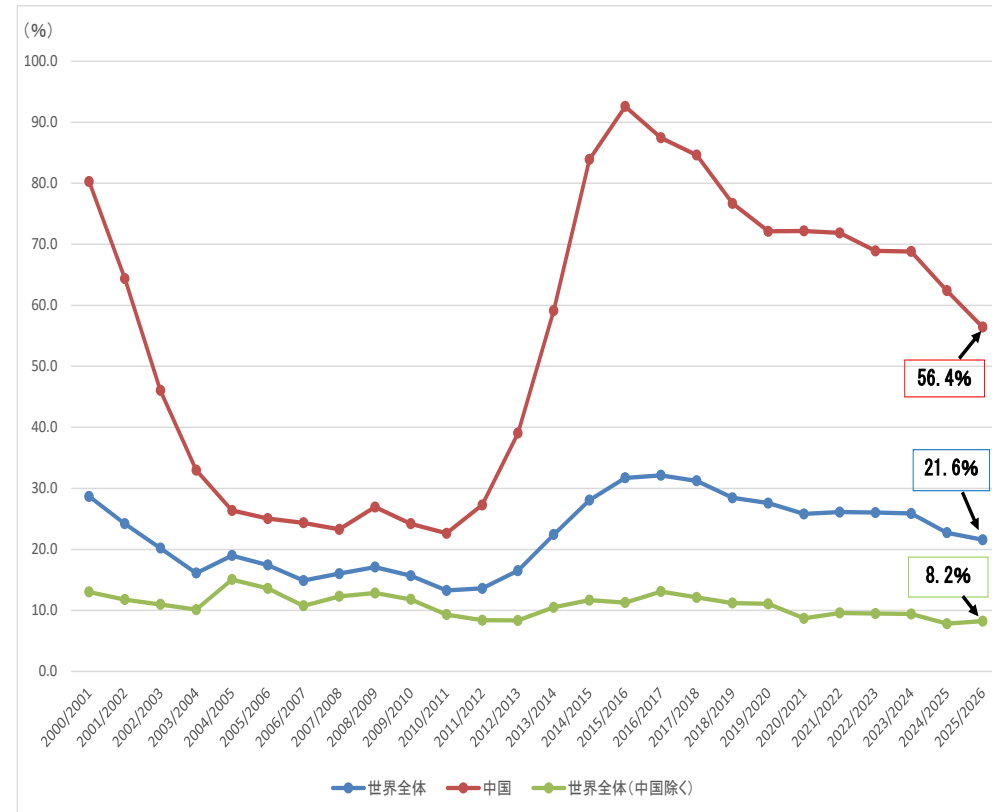
4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(June 12, 2025)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

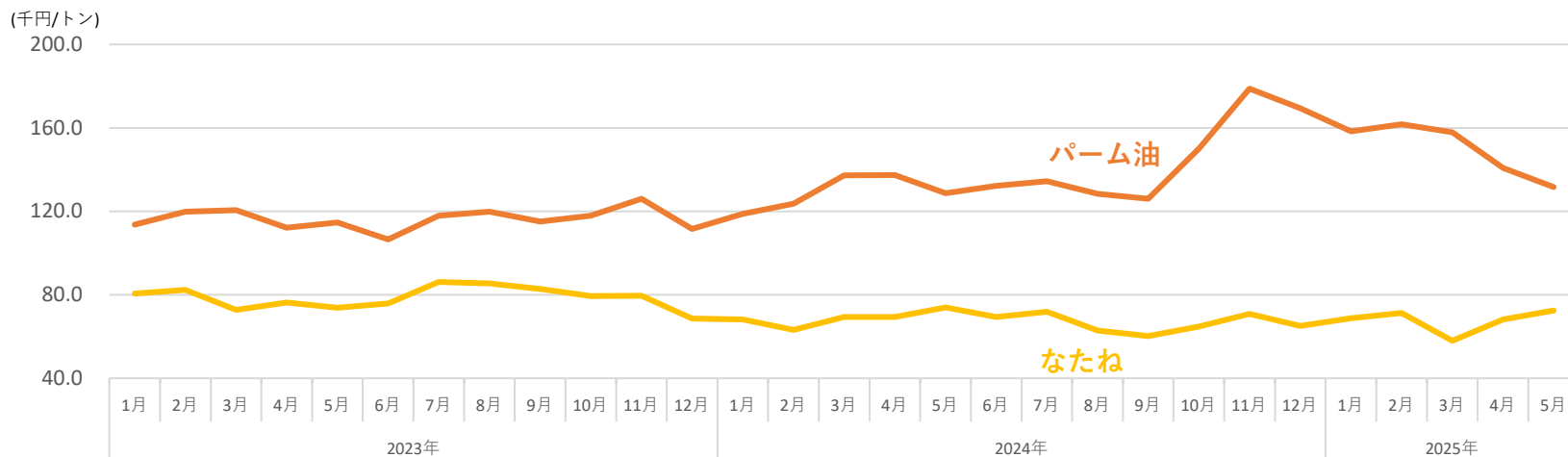
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油については、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で**2024年10月**以降上昇したが、直近ではマレーシアとインドネシアのパーム油生産量増加や在庫の増加見通し等により、価格は下落傾向にある。
- なたねについては、安定している。
- コーヒーについては、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、**2024年**以降上昇しているが、直近では米国の関税政策をめぐる不確実性等は残るものの、概ね横ばいで推移している。



2025年6月23日現在
□内は2023年1月以降の最高値。

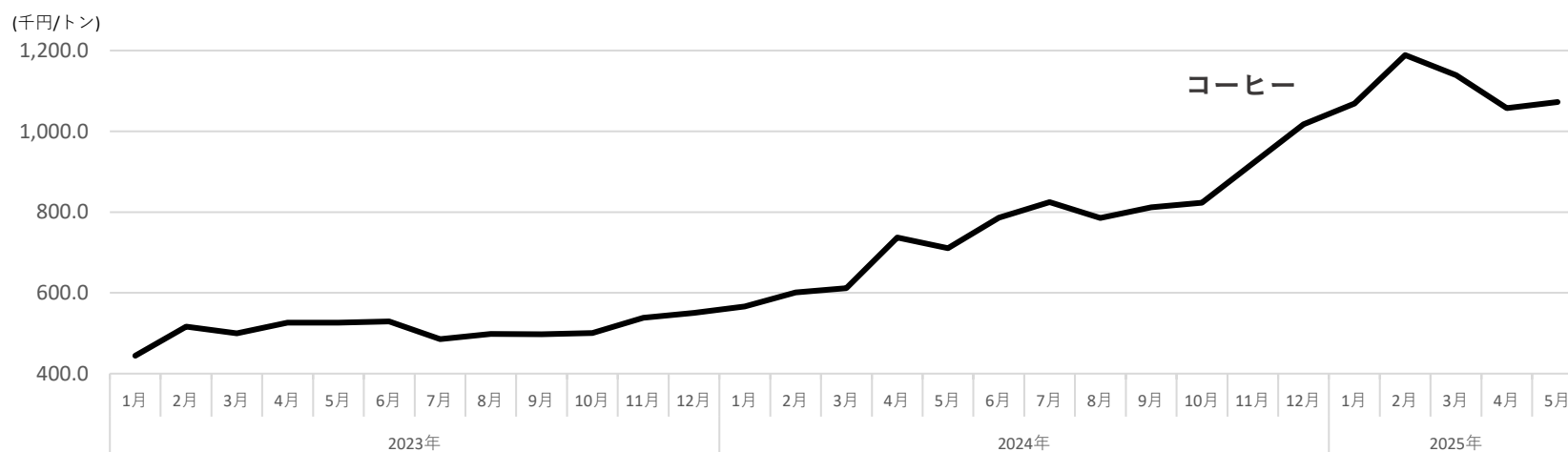
パーム油
140.9千円/トン

178.8千円/トン
(2024.11)

なたね

なたね
68.2千円/トン

86.2千円/トン
(2023.7)



コーヒー

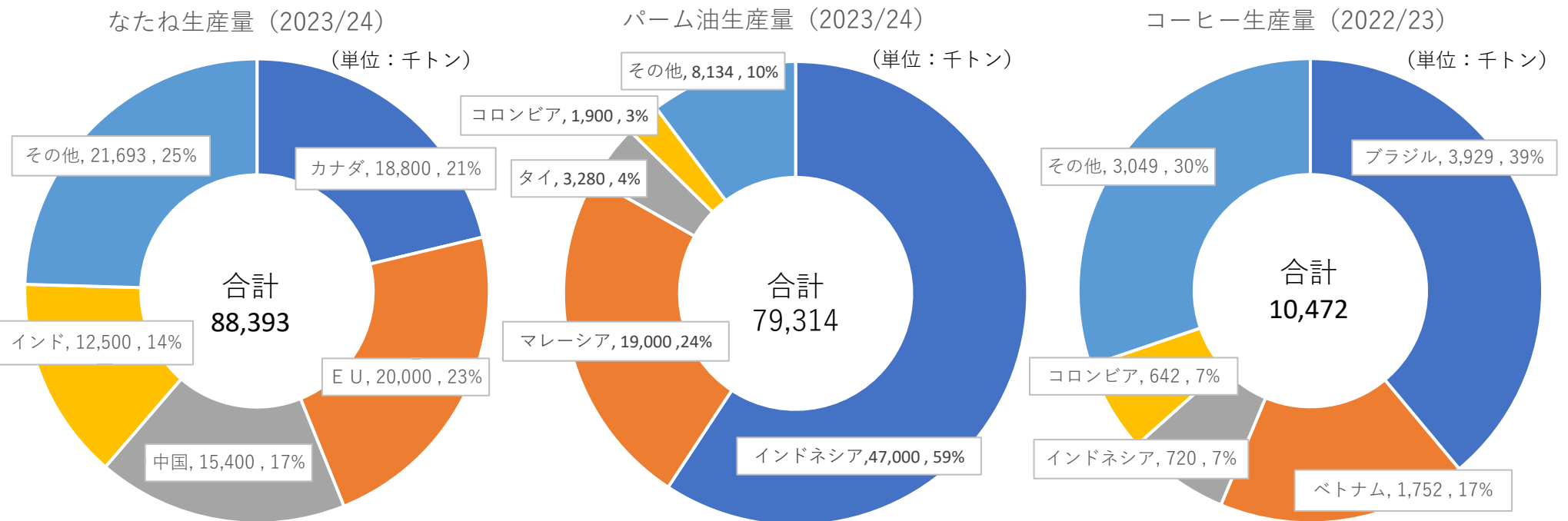
コーヒー
1057.4千円/トン

1188.8千円/トン
(2025.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニベグなたね市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年 6 月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%	マレーシア	574	85.6%	ブラジル	124	35.0%
オーストラリア	983	48.6%	インドネシア	96	14.4%	ベトナム	99	27.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.1%	コロンビア	34	9.6%
合計	2.022	100.0%	合計	671	100.0%	その他	98	27.6%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1	68.7	71.2	58.0	68.2	72.4							
前月比	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9	105.7	103.7	81.4	117.6	106.3							
前年同月比	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9	100.7	112.9	83.5	98.3	98.0							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4	158.4	161.8	157.8	140.9	131.7							
前月比	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7	93.5	102.2	97.6	89.2	93.5							
前年同月比	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8	133.4	130.8	115.0	102.5	102.3							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3	1068.8	1188.8	1138.7	1057.4	1072.9							
前月 比	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5	105.1	111.2	95.8	92.9	101.5							
前年 同月 比	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9	188.8	197.8	186.2	143.5	150.9							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和7年5月の国内の加工食品の消費者物価指数は118.0～153.7（前年同月比で-2.9%～7.7%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和6年12月～令和7年5月）

	R3	R4	R5	R6	R7					
品目	平均	平均	平均	12月	1月	2月	3月	4月	5月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.2	110.3	118.7	121.9	124.6	126.8	127.5	127.1	127.4	4.7%
即席めん	100.1	107.6	119.7	120.1	118.0	121.2	120.8	119.1	121.0	-2.9%
豆腐	101.3	105.3	114.6	119.1	119.4	119.3	120.1	120.4	120.6	2.4%
食用油 (キャノーラ油)	106.9	144.4	160.2	149.9	149.0	147.6	149.2	147.5	149.3	1.1%
みそ	99.3	101.3	108.1	114.0	114.5	114.8	115.3	116.1	118.0	4.3%
マヨネーズ	105.6	125.6	149.5	153.1	153.9	152.8	152.0	151.9	153.7	0.2%
チーズ	98.7	107.5	131.1	128.2	132.9	133.9	139.3	141.8	138.6	6.2%
バター	99.9	99.2	108.6	119.5	120.0	119.6	123.1	124.4	125.9	4.5%
生鮮食品を 除く食料	100.2	104.1	112.6	120.1	121.0	121.6	122.5	123.6	124.6	7.7%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料: 総務省消費者物価指数

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和6年12月～令和7年6月）

	R3	R4	R5	R6	R7							
品目	平均	平均	平均	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	98.6	107.8	114.5	118.2	122.5	124.0	124.5	124.7	124.0	124.2	0.2%	4.5%
即席めん	99.2	105.6	117.5	117.3	115.5	116.7	116.7	117.3	117.3	116.1	-1.0%	1.0%
豆腐	100.6	103.7	113.0	118.0	118.5	118.0	117.6	120.7	119.8	119.8	0.0%	4.2%
食用油 (キャノーラ油)	104.1	140.7	159.4	140.0	140.3	139.7	141.3	142.2	140.3	141.6	0.9%	-1.7%
みそ	99.2	100.1	105.9	108.8	109.8	110.0	110.4	110.2	110.4	111.7	1.2%	2.3%
マヨネーズ	102.2	117.7	139.8	140.6	140.6	139.9	138.9	138.9	140.3	139.6	-0.5%	-1.2%
チーズ	98.1	105.7	126.5	122.3	127.8	126.3	133.7	136.7	134.7	130.3	-3.3%	2.0%
バター	99.8	99.1	108.0	119.2	120.1	119.4	124.8	127.1	127.1	127.3	0.2%	6.3%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年7月号（6月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）25年4月の牛肉生産量はわずかに減少、牛肉卸売価格は高値で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003782.html

（豪州）輸出需要を背景に若齢牛価格は今期最高値を記録、雌牛と畜割合は上昇

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003783.html

（中国）牛肉生産量は引き続き増加も価格はやや上昇、輸入量は減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003784.html

◆豚肉

（EU）豚枝肉卸売価格が上昇基調、豚肉輸出量は中国向けが大幅増

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003785.html

（チリ）25年1～3月の豚肉生産量は1.3%増、輸出量は4.7%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003786.html

◆牛乳・乳製品

（米国）25年3月の乳製品輸出、ホエイやバターが前年同月比で増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003789.html

（EU）高水準の乳製品価格を背景に25年第1四半期の輸出量はチーズを除き減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003790.html

（NZ）干ばつの影響を受け生乳生産量はわずかに減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003791.html

（中国）25年第1四半期の生乳生産量は増加、乳製品輸入量も増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003792.html

◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）25/26年度は消費量および輸出量の増加から期末在庫はやや減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003794.html

（世界・大豆）25/26年度は生産量、輸出量ともに増加見込み、大豆期末在庫は微増

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003795.html

（米国）米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

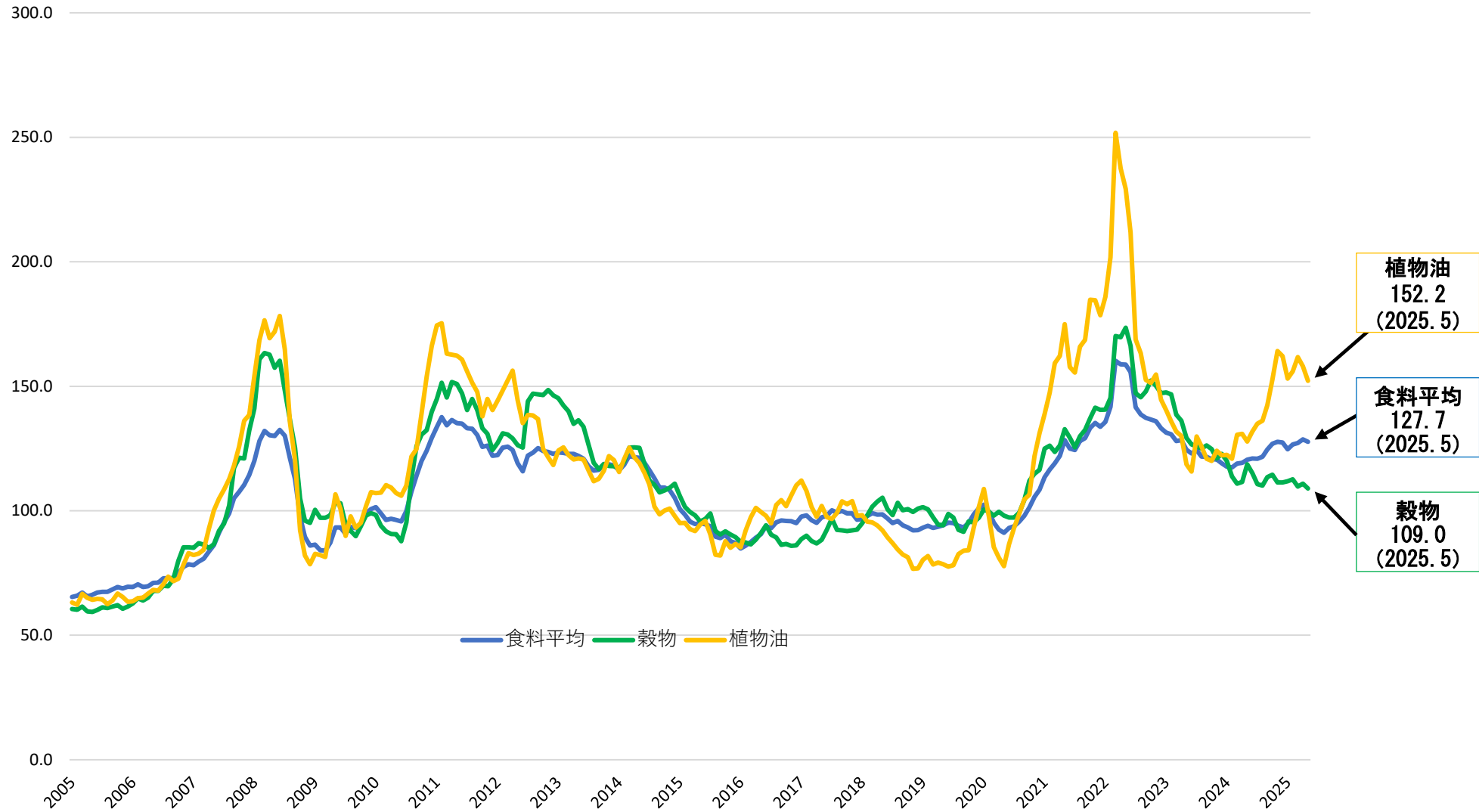
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003796.html

（中国）25/26年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003797.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2025.5)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

ベトナムの食料事情：食文化（ベトナム料理）

1 はじめに

ベトナム（ベトナム社会主義共和国）は、日本列島に似た南北に細長い国土を持ち、日本の国土から九州を除いた面積とほぼ同じで、その4分の3を山岳や高原地帯が占めています。平野は海岸地帯のメコンデルタ（南部）、紅河デルタ（北部）に限られますが、熱帯モンスーン気候のため2期作又は3期作が可能であり、世界有数の米生産国の一つです。

ベトナムの人口は2023年に1億人を超え、世界16位となりました。日本には多くのベトナム人技能実習生等が在留し、ベトナムにも多くの日本人観光客が訪れており、日本とベトナムの人的交流は近年活発化しています。

日本でもベトナム料理を食べられるレストランが数多くありますので、今回はベトナムの食文化として代表的なベトナム料理を紹介します。

2 ベトナムの食文化

ベトナムは南北に細長く、地域によって気候が異なるため、食材や味付けにも地域差があり、大きく北部・中部・南部の3つに分けられます。

北部の料理はさっぱりとしたヘルシーな味付けが特徴で、日本人に最も馴染みのあるベトナム料理である米粉麺「フォー」は北部が発祥と言われています。フォーはベトナム全土で食べることができますが、北部のフォーが最も日本人の味覚に合いますので、フォーは北部で食べることを強くお勧めします。また、ハノイには米粉麺「ブン」を使った「ブン・チャー」というつけ麺料理もあります。炭火で焼いた豚肉やつくねが入った酸味の効いたスープにブンを浸して食べます。炭火で焼かれた豚肉にボリュームがあり、食べ応えのある料理です。また、店毎の個性がスープの味付けに強く反映され、人によってお気に入りのお店が異なります。北部にお越しの際は、いくつかのお店で食べ比べを試みるのも楽しみ方の一つです。

中部の料理は辛い味付けが特徴で、古都フエが発祥と言われるレモングラスと唐辛子を使ったピリっと辛いスープの牛肉麺「ブン・ボー・フエ」が有名です。ブン・ボー・フエも米粉麺ですが、平たい断面でつるつるした食感のフォーとは異なり、丸い断面でもちもちした食感です。また、平たい米粉麺を少量のスープで食べるまぜ麺「ミー・クアン」も中部を代表する料理です。ミー・クアンも米粉麺ですが、見た目や食感から小麦粉の意味である「ミー」という名前が付けられたと言われています。

南部の料理はココナッツミルクや砂糖を使った甘い味付けが特徴で、フォーも北部と異なる味付けがされています。南部では「バインセオ」という米粉料理が有名ですが、日本人には「ベトナム風お好み焼き」と紹介することが多いです。バインセオは米粉とココナッツミルクがベースの生地を薄く焼き、野菜、豚肉、エビなどの具材を挟んだ料理です。大皿で提供され、自分で野菜やライスペーパーに包んで食べますが、包むのはとても難しく、ジェスチャーで伝わるため、最初は店員さんに頼む方が賢明です。また、日本人にも馴染みのある生春巻き「ゴイ・グオン」は南部の定番料理です。北部では揚げ春巻き

「ネム」が主流です。

これらの米粉を使った料理以外にも様々な米料理があります。碎米・焼肉・目玉焼き・なま酢をワンプレートに盛り付けた「コムタム」は南部の定番ローカルフードです。もち米・豚肉・緑豆をバナナの葉で包んで蒸し上げる「バインチュン」は旧正月「テト」に欠かせない伝統的なもち米料理です。ベトナムの伝統的なデザートである「チェー」は、米・豆・果物・ゼリーとココナッツミルクを合わせた甘いスイーツで、若者からお年寄りまで幅広く人気があります。

このようにベトナムには主食、おかず、デザートなど幅広く様々な米料理があります。USDA の公表データによれば、2024 年のベトナム国内における精米の消費量は 23 百万トンでした（日本：8 百万トン）。日本の 2 倍以上の消費量がありますが、これは平均年齢の若さに加え、多種多様な米料理が存在し、多くのベトナム人に愛されているからだと感じています。



写真1 フォー
(東京支店のある Pho Thin)



写真2 ブン・チャー
(ベトナムつけ麺)



写真3 ミー・クアン
(ベトナムまぜ麺)



写真4 バインセオ
(ベトナム風お好み焼き)



写真5 チェー
(伝統的なスイーツ)



写真6 日常風景
(道路でフォーを食べる人々)

3 終わりに

今年は 2025 大阪・関西万博が開催されています。ベトナムパビリオンは万博の開幕には間に合いませんでしたが、ベトナム戦争の終結から 50 年となる 4 月 30 日に開館しました。日本国内でベトナムの文化に触れることができる機会ですので、是非、足をお運びください。

今回は、ベトナムにおける農林水産物の生産・貿易について紹介したいと思います。

文責：田中 祐輔（在ベトナム日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ウズベキスタン、トルクメニスタン等で下方修正されたものの、EU、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

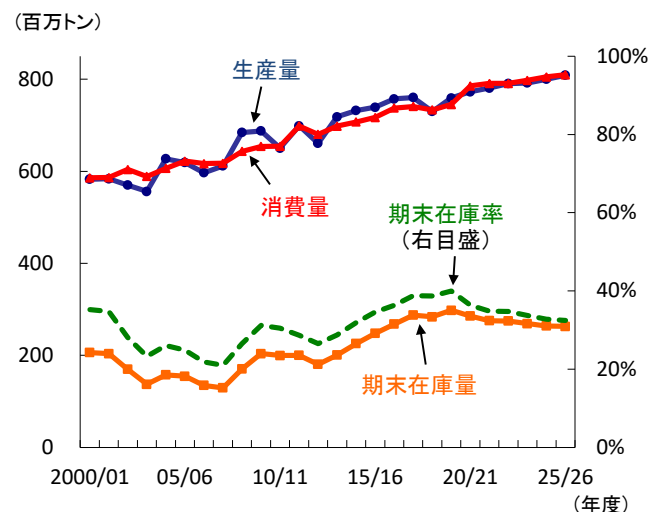
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・アルジェリア、ウズベキスタン等で下方修正されたものの、ナイジェリア、スーダン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・米国、EU等で前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2025. 6. 12) をもとに農林水産省にて作成

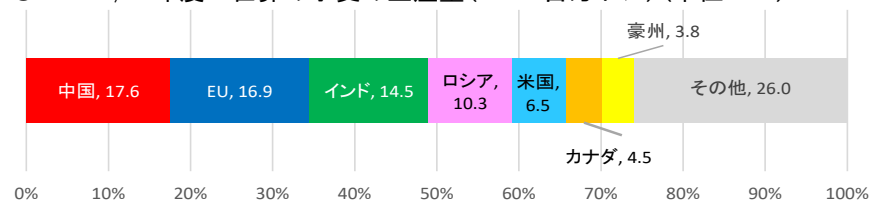
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

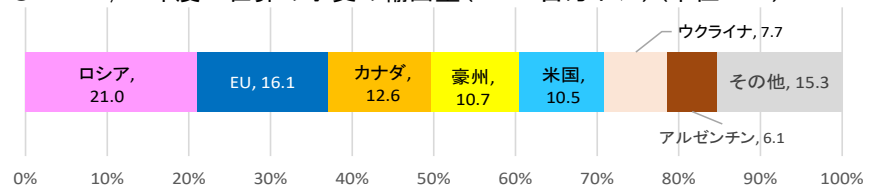
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	792.0	799.9	808.6	0.1	1.1
消 費 量	797.8	804.9	809.8	1.8	0.6
うち飼料用	159.2	154.9	155.8	0.4	0.6
輸 出 量	222.3	205.9	214.3	1.3	4.1
輸 入 量	222.9	197.9	210.9	1.3	6.6
期末在庫量	269.0	264.0	262.8	▲ 3.0	▲ 0.5
期末在庫率	33.7%	32.8%	32.4%	▲ 0.4	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 June 2025)

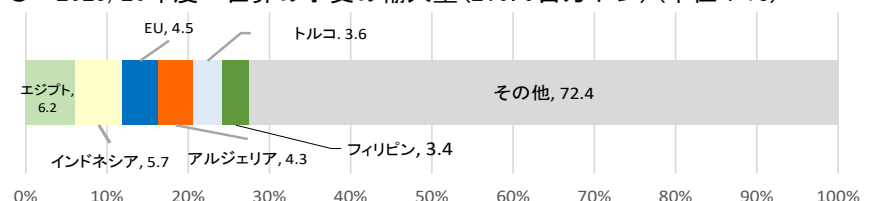
○ 2025/26年度 世界の小麦の生産量(808.6百万トン)(単位: %)



○ 2025/26年度 世界の小麦の輸出量(214.3百万トン)(単位: %)



○ 2025/26年度 世界の小麦の輸入量(210.9百万トン)(単位: %)



（２）国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の輸出量は前年度から 0.6%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は前月予測からの変更はなく 52.3 百万トンと、収穫面積が前年度より減少することから前年度と比べ 2.6%減となるものの、過去 5 年平均（48.4 百万トン）と比べ 8.0%増となる見込み。

同「Crop Progress」（2025.6.16）によれば、6 月 15 日現在、2025/26 年度の冬小麦の 93%が出穂（前年同期 93%、過去 5 年平均 92%）しており、作柄評価は、「良～優良」の割合が 52%（前年同期 49%）となっている。収穫進捗率は、10%（前年同期 25%、過去 5 年平均 16%）と、降雨の影響により遅れている。また、春小麦は 4%が出穂（前年同期 4%、過去 5 年平均 6%）しており、作柄は、「良～優良」の割合が 57%（前年同期 76%）と、先週から改善したものの、主産地であるモンタナ州及びノースダコタ州では乾燥の影響により前年度を大きく下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、好調な輸出を受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 22.5 百万トンと、前年度と比べ 0.6%増、過去 5 年平均（22.2 百万トン）と比べても 1.1%増となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.6.16）によれば、2025/26 年度の輸出量は、2025/26 年度の前年度が生産量が過去 5 年平均比で 8%増、期末在庫量も 3 年連続増となる見込みであることや、ドル安により米国の小麦価格は他の輸出国と比べ競争力があることから、2020/21 年度（27.0 百万トン）以降最高となる見込み。一方で他の輸出国からの供給増により、米国の輸出量の劇的な増加は予想されておらず、主な競争相手国はロシア及び EU と見込まれている。

また、2024/25 年度の輸出量は前月予測からの変更はなく 22.3 百万トンと、前年度と比べ 16.0%増となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～2025 年 4 月の輸出量は、1,973.5 万トンと前年同期（1,714.1 万トン）と比べ 15.1%増。国別には、メキシコ 362.4 万トン（18.4%）、フィリピン 225.9 万トン（11.4%）、日本 218.0 万トン（11.0%）の順となっている。一方で、中国への輸出は 15.3 万トン（0.8%）と大きく減少している。

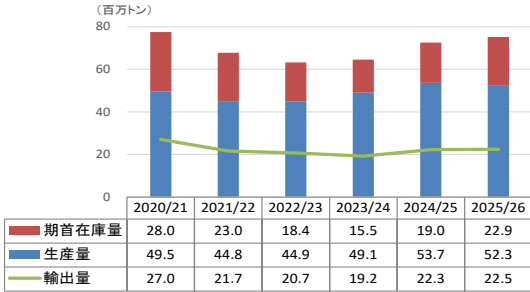
2025/26 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げを受け、前月予測から 0.7 百万トン下方修正され 24.5 百万トンとなるものの、前年度と比べ 6.8%増となる見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年6月～26年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.1	53.7	52.3	-	▲ 2.6
消費量	30.2	31.5	31.5	-	0.2
うち飼料用	2.3	3.3	3.3	-	-
輸出量	19.2	22.3	22.5	0.7	0.6
輸入量	3.8	4.1	3.3	-	▲ 19.9
期末在庫量	19.0	22.9	24.5	▲ 0.7	6.8
期末在庫率	38.4%	42.6%	45.3%	▲ 1.8	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.01	15.57	15.07	-	▲ 3.2
単収(t/ha)	3.27	3.45	3.47	-	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 June 2025)

図 米国の小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2025.6.12）をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2023/24年度 (2023年6月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年6月～2025年4月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	297.6	17.4	メキシコ	362.4	18.4
フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	237.8	13.9	フィリピン	225.9	11.4
中国	216.9	11.6	中国	205.1	12.0	日本	218.0	11.0
日本	197.1	10.5	日本	181.0	10.6	韓国	206.8	10.5
韓国	130.1	6.9	韓国	112.3	6.6	台湾	98.2	5.0
台湾	110.5	5.9	台湾	97.7	5.7	タイ	86.9	4.4
その他	618.1	33.0	その他	582.6	34.0	その他	775.2	39.3
計	1,873.0	100.0	計	1,714.1	100.0	計	1,973.5	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 2.2%減の見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」 (2025.6.20) によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 34.7 百万トンと、史上 3 番目の生産量となった前年度 (35.0 百万トン) と比べ 0.7%減となるものの、過去 5 年平均 (32.1 百万トン) と比べ 8.1%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.3 百万トンと、前年度 (29.1 百万トン) と比べ 0.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量となる見込み。デュラム小麦は 5.4 百万トンと、前年度 (5.9 百万トン) と比べ 7.5%減となるものの、過去 5 年平均 (5.1 百万トン) と比べ 7.1%増となる見込み。なお、5 月の降水量は平年を下回り、気温も平年より高かったため、53%の農業地域が異常な乾燥から極度の干ばつに分類されている。主要生産州政府によれば、サスカチュワン州では、6 月 9 日現在、春小麦及びデュラム小麦の作付けはほぼ終了。耕地の表土水分は、42%が不足、12%が非常に不足となっている。アルバータ州では、6 月 10 日現在、春小麦の 99.5%が出芽しており、大部分は分げつ期。表土水分は、33%が不足となっている。マニトバ州では、6 月 10 日現在、春小麦の作付けはほぼ終了し、大部分は分げつ期。降雨量は平年を下回っている。

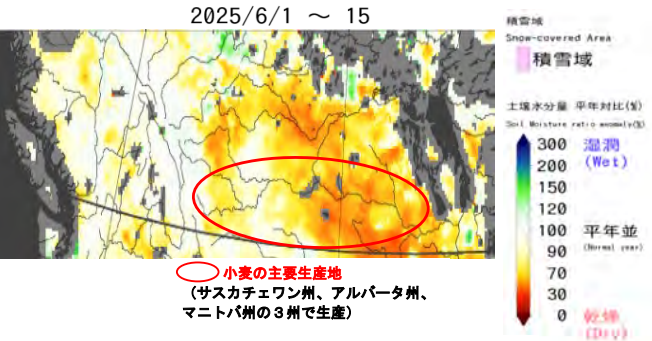
【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.1 百万トンと、デュラム小麦が減産となることから前年度 (26.7 百万トン) 比 2.2%減となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.5 百万トンと前年度比 0.5%減、デュラム小麦が 4.6 百万トンと前年度比 9.8%減となる見込み。2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 26.7 百万トンと、前年度 (25.3 百万トン) 比 5.5%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.6 百万トンと前年度比 0.8%減となる見込み。これは 2024/25 年度の実生産量は増加するものの、収穫前の降雨により低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加したこと等による。デュラム小麦は 5.1 百万トンと生産量の回復による輸出余力の増大等を受け、前年度 (3.5 百万トン) と比べ 43.7%増となる見込み。カナダ穀物委員会 (CGC) によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 4 月の輸出量は、2,036.3 万トンと、前年同期 (1,913.5 万トン) と比べ 6.4%増。種類別には、普通小麦が 1,599.4 万トンと前年同期 (1,638.9 万トン) と比べ 2.4%減。国別には、インドネシア 168.5 万トン (10.5%)、日本 147.6 万トン (9.2%)、中国 120.1 万トン (7.5%) の順。デュラム小麦は 436.9 万トンと前年同期 (274.6 万トン) と比べ 59.1%増。国別には、アルジェリア 116.6 万トン (26.7%)、モロッコ 88.5 万トン (20.3%)、イタリア 77.9 万トン (17.8%) の順。

小麦一カナダ (春小麦を主に栽培)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	33.0	35.0	36.0 (34.7)	-	3.0
消 費 量	9.1	9.0	9.3 (8.6)	-	2.8
うち飼料用	4.0	3.8	4.0 (4.1)	-	5.3
輸 出 量	25.4	27.0	27.0 (26.1)	-	-
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	-
期末在庫量	4.6	4.1	4.4 (4.3)	-	7.3
期末在庫率	13.3%	11.4%	12.1% (12.2%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.70	10.65	10.90 (10.92)	-	2.3
単収(t/ha)	3.08	3.28	3.30 (3.18)	-	0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 June 2025)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」 (20 June 2025)

図 カナダの土壌水分量平年対比



資料：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	310.3	14.7	中国	269.9	16.5	インドネシア	168.5	10.5
インドネシア	251.9	11.9	インドネシア	184.9	11.3	日本	147.6	9.2
日本	173.9	8.2	バングラデシュ	145.5	8.9	中国	120.1	7.5
バングラデシュ	172.7	8.2	日本	135.7	8.3	ベルギー	116.0	7.3
ベルギー	137.3	6.5	ベルギー	87.9	5.4	コロンビア	99.6	6.2
その他	1,069.2	50.5	その他	815.0	49.7	その他	947.6	59.2
計	2,115.3	100.0	計	1,638.9	100.0	計	1,599.4	100.0

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
アルジェリア	89.3	26.0	アルジェリア	75.2	27.4	アルジェリア	116.6	26.7
モロッコ	81.7	23.8	モロッコ	68.4	24.9	モロッコ	88.5	20.3
米国	46.2	13.5	イタリア	38.2	13.9	イタリア	77.9	17.8
イタリア	44.7	13.0	米国	32.9	12.0	米国	43.2	9.9
日本	21.2	6.2	日本	16.2	5.9	日本	18.4	4.2
その他	60.4	17.6	その他	43.7	15.9	その他	92.3	21.1
計	343.5	100.0	計	274.6	100.0	計	436.9	100.0

資料：CGC のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞ 2025/26 年度の生産量は史上 3 番目の前年度から 10.4%減の見込み（ABARES）

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2025.6.3）によれば、2025/26 年度の実産量は 30.6 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が減少することから史上 3 番目の生産量となった前年度と比べ 10.4%減、過去 5 年平均（33.8 百万トン）と比べ 9.5%減となる見込み。州別には、ウェスタンオーストラリア州（WA 州）が 11.0 百万トン（前年度比 13.0%減）、ニューサウスウェールズ州（NSW 州）が 9.7 百万トン（同 24.8%減）、クイーンズランド州（QLD 州）が 1.9 百万トン（同 17.0%減）と平年並みの天候になるとの予想から豊作だった前年度に比べ減少する一方、サウスオーストラリア州（SA 州）が 4.2 百万トン（同 50.2%増）、ビクトリア州（VIC 州）が 3.8 百万トン（同 8.6%増）と乾燥が続いているものの前年度に比べ生産量が増加する見込み。一方、USDA によれば、2025/26 年度の実産量は前月予測からの変更はなく 31.0 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が減少することから前年度と比べ 9.1%減、過去 5 年平均（33.8 百万トン）と比べ 8.2%減となる見込み。

西豪州穀物産業協会（GIWA）「Crop Report」（2025.6.13）によれば、2025/26 年度冬小麦の作付面積は、北部地域において、乾燥により菜種等から小麦へ作付転換等が行われたことから前月予測から 33 万ヘクタール上方修正され 440 万ヘクタールとなる見込み。5 月下旬から 6 月上旬にかけ広範囲に降雨があったものの、WA 州の大部分で土壌水分が少ない状況となっている。現地情報会社によれば、WA 州は作付けはほぼ完了しており、概ね 2～4 葉期を迎えている。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2025/26 年度の実輸出量は 23.0 百万トンと、期首在庫量が増加することから前年度（22.0 百万トン）と比べ 4.5%増、過去 5 年平均（24.9 百万トン）と比べ 7.8%減となる見込み。一方、USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は前月予測からの変更はなく 23.0 百万トンと、生産量が減少することから、前年度と比べ 8.0%減、過去 5 年平均（25.6 百万トン）と比べ 10.1%減となる見込み。

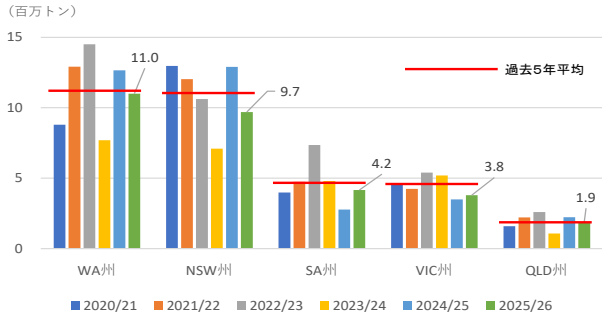
ABARES によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 4 月の輸出量は 1,260.8 万トンと、前年同期（1,326.8 万トン）と比べ 5.0%減。国別には、インドネシア 212.9 万トン（16.9%）、フィリピン 185.5 万トン（14.7%）、タイ 115.7 万トン（9.2%）の順で、中国は 74.1 万トン（5.9%）と大きくシェアを減少させている。2025/26 年度の期末在庫量は 4.9 百万トンと、生産量の減少及び輸出量の増加等を受け前年度と比べ 19.6%減となる見込み。

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、() はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.0	34.1	31.0 (30.6)	-	▲ 9.1
消 費 量	7.8	8.0	8.1 (8.8)	-	1.3
うち飼料用	4.3	4.5	4.6 ...	-	2.2
輸 出 量	19.8	25.0	23.0 (23.0)	-	▲ 8.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 ...	-	-
期末在庫量	2.9	4.2	4.3 (4.9)	-	2.4
期末在庫率	10.5%	12.8%	13.9% (15.5%)	-	1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.37	13.06	12.50 (12.63)	-	▲ 4.3
単収(t/ha)	2.10	2.61	2.48 (2.42)	-	▲ 5.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 June 2025)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料：ABARES「Australian Crop Report」（2025.6.3）をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	375.6	19.0	中国	346.6	26.1	インドネシア	212.9	16.9
インドネシア	323.5	16.3	インドネシア	221.0	16.7	フィリピン	185.5	14.7
フィリピン	233.7	11.8	フィリピン	113.1	8.5	タイ	115.7	9.2
イエメン	152.2	7.7	イエメン	98.9	7.5	ベトナム	89.4	7.1
韓国	123.5	6.2	ベトナム	78.6	5.9	韓国	81.0	6.4
日本	120.6	6.1	日本	77.0	5.8	イエメン	79.4	6.3
その他	651.8	32.9	その他	391.5	29.5	その他	497.0	39.4
計	1,980.8	100.0	計	1,326.8	100.0	計	1,260.8	100.0

資料：ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2025/26 年度の輸出量は前年度から 24.2%増の見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2025.5.28) によれば、2025/26 年度の生産量は単収の引上げを受け前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 134.6 百万トンと、主産国で生育期間を通じた降雨過多等により減産となった前年度 (118.9 百万トン) から生産量が回復することから、前年度と比べ 13.2%増、過去 5 年平均 (129.5 百万トン) と比べ 3.9%増となる見込み。このうち、普通小麦は、126.6 百万トンと、フランス、ドイツ等で生産量が回復することから前年度と比べ 13.3%増、過去 5 年平均と比べ 3.8%増となる見込み。デュラム小麦もイタリアで増産となること等から 8.0 百万トンと、前年度と比べ 10.7%増、過去 5 年平均と比べ 6.4%増となる見込み。

同「JRC MARS Bulletin - Crop monitoring in Europe」(2025.5.26) によれば、2025 年の春は、フランス北部、ドイツ、ポーランド西部・南部、スウェーデン等で記録上最も乾燥した春となっており、秋播き及び春播き作物の生産減少の懸念が生じている。一方、南欧州は豊富な降雨により、特にスペイン及びポルトガルでは平年を上回る生産量が予想されている。USDA「World Agricultural Production」(2025.6.12) によれば、スペインでは 2022/23、2023/24 年度の降雨量が大幅に減少し干ばつに見舞われた。2024/25、2025/26 年度は降雨量が平年を上回り、冬小麦の生産量が増加する見込み。

【貿易情報・その他】EC によれば、2025/26 年度の輸出量は前月予測からの変更はなく 30.7 百万トンと、減産となった前年度から生産量が回復することから前年度 (24.7 百万トン) と比べ 24.2%増となる見込み。一方で 2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 3 月の輸出量は、1,981.7 万トンと、減産により前年同期 (2,861.9 万トン) と比べ 30.8%減。種類別には、普通小麦が 1,920.1 万トンと、前年度と比べ 31.6%減となる一方、デュラム小麦は 61.6 万トンと、ギリシャやルーマニア等の輸出量が増加したこと等から同 12.5%増。2025/26 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 5.4 百万トンと、ウクライナからの輸入が減少すると見込まれることから前年度 (10.3 百万トン) と比べ 48.1%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 3 月の輸入量は、823.4 万トンと、ウクライナやロシアからの輸入が減少したこと等から前年同期 (948.2 万トン) と比べ 13.2%減。種類別には、普通小麦が 671.1 万トンと、前年度と比べ 9.3%減。デュラム小麦も 152.3 万トンと、同 27.0%減。2025/26 年度の期末在庫量は生産量の引上げ等を受け前月予測から 0.6 百万トン上方修正され 10.2 百万トンとなるものの、前年度 (11.8 百万トン) と比べ 13.6%減となる見込み。

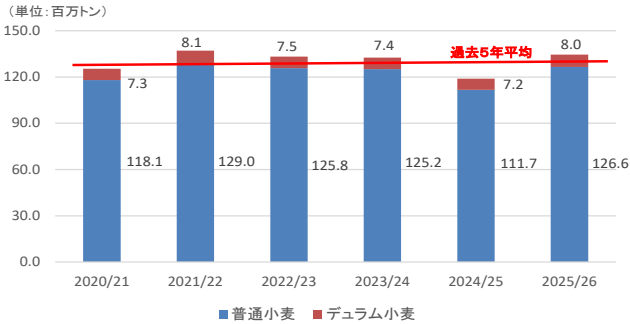
小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			予測値、() はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	135.4	122.1	136.6 (134.6)	0.6	11.8
消 費 量	110.5	109.8	111.0 (110.8)	-	1.1
うち飼料用	46.5	45.5	46.5 (45.8)	-	2.2
輸 出 量	38.0	26.5	34.5 (30.7)	0.5	30.2
輸 入 量	12.7	10.7	9.5 (5.4)	-	▲ 11.2
期末在庫量	15.8	12.4	12.9 (10.2)	0.1	4.4
期末在庫率	10.6%	9.1%	8.9% (7.2%)	0.004	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.32	22.70	24.00 (23.32)	-	5.7
単収(t/ha)	5.57	5.38	5.69 (5.77)	0.02	5.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)、
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(28 May 2025)

図 EUの小麦生産量の推移



資料: EC 「EU cereals production, area and yield」(2025.5.28)
をもとに農林水産省で作成

表 EUの小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量						O輸入量					
2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年3月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年3月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	489.1	13.5	モロッコ	254.2	12.8	ウクライナ	647.1	53.9	ウクライナ	412.8	50.1
アルジェリア	396.7	11.0	アルジェリア	251.9	12.7	カナダ	138.5	11.5	カナダ	195.9	23.8
ナイジェリア	348.9	9.6	ナイジェリア	221.7	11.2	ロシア	82.1	6.8	モルドバ	51.0	6.2
中国	237.2	6.5	英国	148.4	7.5	トルコ	76.7	6.4	米国	46.9	5.7
エジプト	178.2	4.9	エジプト	143.8	7.3	モルドバ	72.9	6.1	セルビア	39.9	4.9
サウジアラビア	153.8	4.2	サウジアラビア	89.9	4.5	カザフスタン	56.8	4.7	英国	28.4	3.5
その他	1,817.3	50.2	その他	871.8	44.0	その他	126.4	10.5	その他	48.4	5.9
合計	3,621.2	100.0	合計	1,981.7	100.0	合計	1,200.5	100.0	合計	823.4	100.0

資料: EC 「EU trade for cereals」(2025.5.19) をもとに農林水産
省で作成

＜ ロシア ＞ 2025/26 年度の輸出量は前年度から 3.4%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更はなく 83.0 百万トンと、霜害と高温乾燥により生産量が減少した前年度から単収が増加することから前年度と比べ 1.7%増となるものの、過去 5 年平均（85.1 百万トン）と比べ 2.5%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 59.0 百万トンと、前年度（55.8 百万トン）に比べ 5.7%増となる一方、春小麦は 24.0 百万トンと、前年度（25.8 百万トン）と比べ 7.0%減となる見込み。

ロシア気象センターによれば、5 月の降水量は大部分の地域で平年を上回ったものの、主要な冬小麦生産地である中央連邦管区南部では平年を下回っている。

現地情報会社によれば、6 月 6 日現在、2025/26 年度春小麦は、作付予定面積 1,227.1 万ヘクタールに対し、1,081.3 万ヘクタールが作付けされ、作付進捗率は 88.1%となっている。報道によれば、6 月 10 日現在、2025/26 年度冬小麦を含む秋播き作物の作柄は 93%が平年並み以上となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は前月予測からの変更はなく 45.0 百万トンと、生産量が増加することから前年度と比べ 3.4%増、過去 5 年平均（44.2 百万トン）と比べ 1.8%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

一方、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 43.5 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 21.6%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べ 2.6%増となる見込み。

ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。

現地情報会社によれば、ドル安・ルーブル高の傾向から輸出の収益率が下がり輸出が低調となっており、6 月頭の段階で輸出枠 1,060 万トンのうち、約 250 万トンが未配分となっている。輸出枠の配分要件が緩和されているものの、輸出枠の全量消化は難しいとみられる。

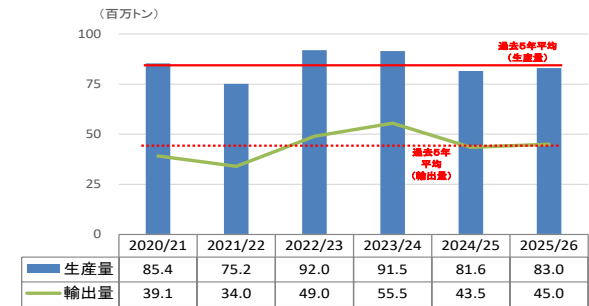
2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 5 月の輸出量は 3,957.6 万トンと、前年同期（4,958.1 万トン）と比べ 20.2%減となっている。国別には、エジプト 784.9 万トン（19.8%）、トルコ 301.1 万トン（7.6%）、バングラデシュ 270.6 万トン（6.8%）の順。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げ及び消費量の引上げを受け、前月予測から 2.0 百万トン下方修正され 9.4 百万トンと、前年度と比べ 6.9%減となる見込み。

小麦ーロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			2025/26 (25年7月～26年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	91.5	81.6	83.0 (81.7)	-	1.7
消 費 量	39.0	40.0	39.0 (39.1)	0.5	▲ 2.5
うち飼料用	16.0	17.0	16.0 (16.1)	0.5	▲ 5.9
輸 出 量	55.5	43.5	45.0 (43.3)	-	3.4
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.5)	-	-
期末在庫量	11.7	10.1	9.4 (10.1)	▲ 2.0	▲ 6.9
期末在庫率	12.4%	12.1%	11.2% (12.2%)	▲ 2.5	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.83	27.80	27.20 (27.37)	-	▲ 2.2
単収(t/ha)	3.17	2.94	3.05 (2.98)	-	3.7
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 June 2025) IGC 「Grain Market Report」(22 May 2025)					

図 ロシアの小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025. 6. 12)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	868.3	16.0	エジプト	769.5	15.5	エジプト	784.9	19.8
トルコ	691.9	12.8	トルコ	654.1	13.2	トルコ	301.1	7.6
バングラデシュ	350.2	6.5	バングラデシュ	370.6	7.5	バングラデシュ	270.6	6.8
アルジェリア	236.8	4.4	パキスタン	213.0	4.3	アルジェリア	168.9	4.3
サウジアラビア	224.8	4.2	アルジェリア	202.3	4.1	リビア	159.9	4.0
その他	3,044.0	56.2	その他	2,748.6	55.4	その他	2,272.2	57.4
合計	5,416.0	100.0	合計	4,958.1	100.0	合計	3,957.6	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2025/26 年度の輸出量は前年度から 3.1%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26年度の生産量（クリミア地域分を含む）は前月予測からの変更はなく23.0百万トンと、前年度から収穫面積が減少することから前年度と比べ1.7%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べ17.6%減となる見込み。

同「World Agricultural Production」（2025.6.12）によれば、2025/26年度の冬小麦の作付面積は約450万ヘクタールとなっている。春小麦は約20万ヘクタールに作付けが計画されており、5月29日現在の作付進捗率は95%となっている。冬期は乾燥していたものの、5月に主要な小麦生産地に降雨があり、全体的に良好な土壌水分となった。

現地情報会社によれば、5月末現在、2025/26年度の冬小麦は大部分が開花期を迎えており、乾燥と霜害により生育が著しく遅れた南部の一部圃場ではひまわりに播き直しが行われた。春小麦を含む春播き作物の作柄は、降雨により土壌水分が補充され概ね平年並みで大部分が出穂期を迎えている。なお、6月12日現在の春小麦の作付面積は22.1万ヘクタールで作付進捗率は97%と作付けはほぼ終了している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26年度の輸出量は前月予測からの変更なく16.5百万トンと、期首在庫量の増加と消費量の減少による供給量の増加等から前年度と比べ3.1%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べ8.8%減となる見込み。

EUは、2022年のロシアによるウクライナ侵攻を受け、2022年6月からEUへのウクライナ産品の輸入に関し、輸入関税及び輸入割当を停止してきた。当該措置は本年6月5日に期限を迎え失効し、2025年12月末までの小麦、小麦粉及びメスリンに対する輸入割当数量は58万3,333トンとなった。報道によれば、ウクライナはEUへの輸出に関しEU側と交渉を続けているが、EU以外への輸出多角化が必要になるとみられる。

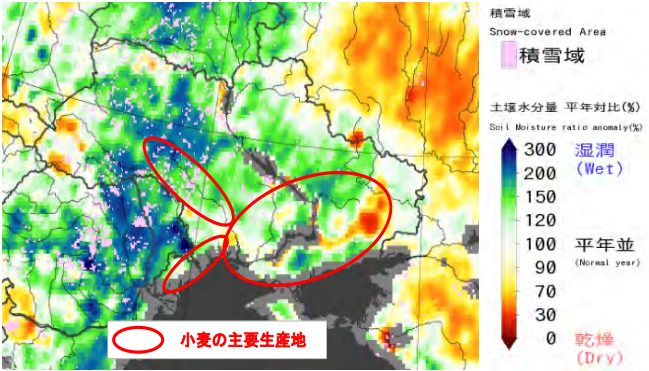
ウクライナ税関庁によれば、2024/25年度のうち2024年7月～2025年5月の輸出量は1,479.7万トンと、前年同期（1,742.9万トン）と比べ15.1%減となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し91.3%を輸出している。国別には、スペイン326.1万トン（22.0%）、エジプト190.1万トン（12.8%）、アルジェリア176.0万トン（11.9%）の順。現地情報会社によれば、アルジェリアやアジア諸国のシェア増加の要因は、アルジェリアは同国で大きなシェアを占めていたフランスの小麦生産量が大きく減少したこと、アジア諸国は飼料穀物の需要増や遠方への輸出が安定してきたことによる。USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は前月予測からの変更はなく1.5百万トンと、前年度と同水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	23.0	23.4	23.0 (25.1)	-	▲ 1.7
消 費 量	6.7	6.7	6.6 (8.9)	-	▲ 1.5
うち飼料用	2.0	2.0	2.0 (1.4)	-	-
輸 出 量	18.6	16.0	16.5 (16.3)	-	3.1
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0
期末在庫量	0.7	1.5	1.5 (0.8)	-	-
期末在庫率	2.8%	6.6%	6.5% (3.0%)	-	▲ 0.1

(参考)
収穫面積(百万ha) 5.01 5.20 5.00 (6.10) - ▲ 3.8
単収(t/ha) 4.59 4.50 4.60 (4.12) - 2.2
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC 「Grain Market Report」(22 May 2025)

図 ウクライナの土壌水分量平年対比
2025/5/16 ～ 31



資料：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年5月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年5月)	
国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア
スペイン	589.9 32.0	スペイン	566.0 32.5	スペイン	326.1 22.0
エジプト	172.1 9.4	エジプト	157.3 9.0	エジプト	190.1 12.8
インドネシア	151.5 8.2	インドネシア	138.0 7.9	アルジェリア	176.0 11.9
トルコ	107.8 5.9	トルコ	107.3 6.2	インドネシア	157.6 10.7
ルーマニア	100.1 5.4	ルーマニア	100.1 5.7	ベトナム	93.4 6.3
その他	719.2 39.1	その他	674.1 38.7	その他	536.5 36.3
合計	1,840.6 100.0	合計	1,742.9 100.0	合計	1,479.7 100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2025/26 年度の輸入量は前年度から 50.0%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は前月予測からの変更はなく 142.0 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が増加することから史上最高の生産量となった前年度と比べ 1.4%増、過去 5 年平均（137.1 百万トン）と比べ 3.6%増となり史上最高を更新する見込み。

中国農業農村部（2025.6.10）によれば、6 月 10 日現在、2025/26 年度の収穫面積は約 1,730 万ヘクタールで収穫進捗率は 74.7%となっている。主要生産地では、安徽省、河南省及び江蘇省の収穫はほぼ終了し、山東省約 60%、河北省約 25%となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は前月予測からの変更はなく 150.0 百万トンと、前年度と同水準となるものの、過去 5 年平均（150.9 百万トン）と比べ 0.6%減となる見込み。2025/26 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 6.0 百万トンと、期首在庫量の減少等から前年度と比べ 50.0%増となる見込み。一方、2024/25 年度の輸入量は、輸入状況を踏まえ前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 4.0 百万トンとなるものの、前年度と比べ 70.7%減となる見込み。

中国国務院関税税則委員会は、3 月 10 日から米国産農水産物の輸入に関し追加関税を賦課（小麦及びとうもろこし 15%、大豆 10%）すると発表した。更に 4 月 4 日、全ての米国産品の輸入に関し 4 月 10 日から 34%の追加関税を賦課すると発表した（税委会公告 2025 年第 4 号）。4 月 9 日には追加関税の 84%への引き上げを発表（同第 5 号）し、4 月 11 日には追加関税を 125%に引き上げ 4 月 12 日から適用すると発表（同第 6 号）した。これにより小麦及びとうもろこしは計 140%（大豆は 135%）の追加関税を課すこととなった。その後、米中共同声明を受け、5 月 14 日から税委会公告 2025 年第 4 号の追加関税 34%のうち 24%の適用を 90 日間停止するとともに、同第 5 号及び第 6 号の追加関税を停止すると発表（同第 7 号）した。これにより小麦及びとうもろこしは計 25%（大豆は 20%）の追加関税を課すこととなった。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 4 月までの輸入量は 295.6 万トンと、増産となった前年同期（1,031.7 万トン）と比べ 71.3%減となっている。国別には、カナダ 126.0 万トン（42.6%）、豪州 60.0 万トン（20.3%）、米国 46.2 万トン（15.6%）の順となっている。

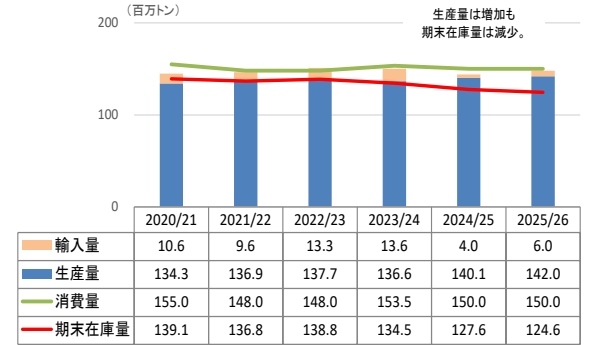
USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は期首在庫量の引上げを受け、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 124.6 百万トンとなるものの、前年度と比べ 2.4%減となる見込み。

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	136.6	140.1	142.0 (140.0)	-	1.4	
消 費 量	153.5	150.0	150.0 (147.3)	-	-	
うち飼料用	37.0	33.0	33.0 (28.0)	-	-	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-	
輸 入 量	13.6	4.0	6.0 (6.2)	-	50.0	
期末在庫量	134.5	127.6	124.6 (134.3)	0.7	▲ 2.4	
期末在庫率	87.0%	84.5%	82.5% (90.5%)	0.5	▲ 2.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.63	23.59	23.60 (23.65)	-	0.04	
単収(t/ha)	5.78	5.94	6.02 (5.92)	-	1.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC 「Grain Market Report」(22 May 2025)

図 中国の小麦の期末在庫量等の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025. 6. 12) をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
豪州	503.5	37.7	豪州	434.8	42.1	カナダ	126.0	42.6
カナダ	307.6	23.0	カナダ	262.4	25.4	豪州	60.0	20.3
フランス	230.1	17.2	フランス	131.0	12.7	米国	46.2	15.6
米国	181.8	13.6	米国	107.5	10.4	カザフスタン	29.4	9.9
カザフスタン	66.8	5.0	カザフスタン	57.1	5.5	ロシア	28.7	9.7
ロシア	42.9	3.2	ロシア	35.6	3.4	日本	4.1	1.4
その他	3.9	0.3	その他	3.3	0.3	その他	1.2	0.4
合計	1,336.5	100.0	合計	1,031.7	100.0	合計	295.6	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

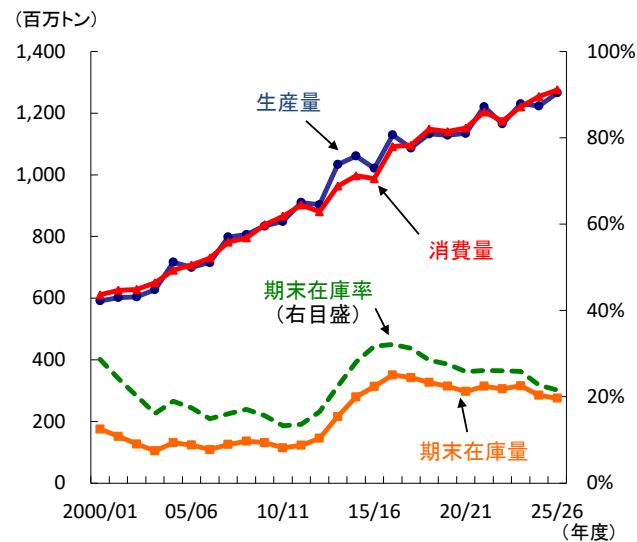
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・豪州で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



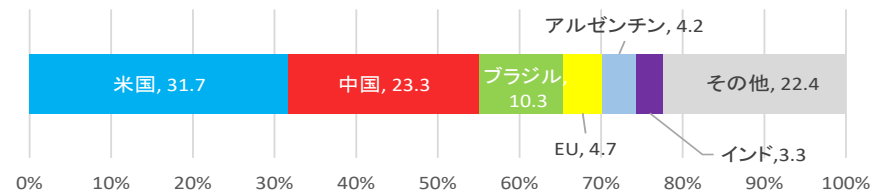
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

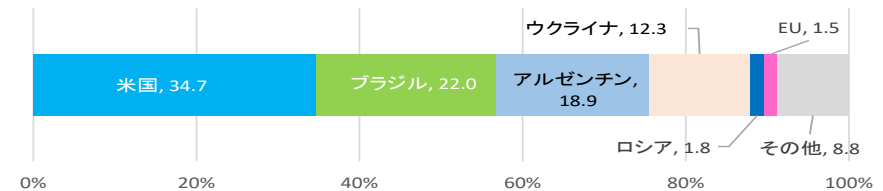
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,230.5	1,223.3	1,266.0	1.0	3.5
消 費 量	1,220.3	1,254.2	1,275.8	1.4	1.7
うち飼料用	769.2	784.2	801.9	0.4	2.3
輸 出 量	193.6	189.9	195.8	0.01	3.1
輸 入 量	198.2	183.0	187.5	-	2.4
期末在庫量	315.9	285.0	275.2	▲ 2.6	▲ 3.4
期末在庫率	25.9%	22.7%	21.6%	▲ 0.2	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 June 2025)

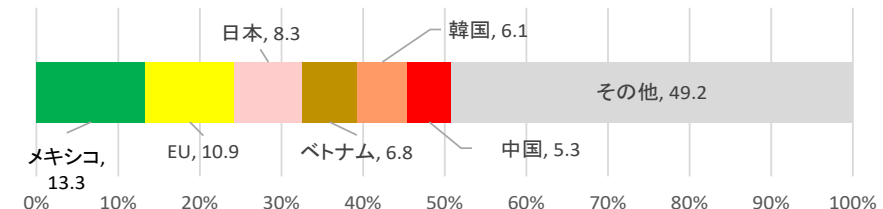
○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,266.0百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸出量(195.8百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸入量(187.5百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.4%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 6.4%増の 401.9 百万トンとなり、史上最高の見込み。とうもろこしの作付けに有利な価格相場により、多くの農家が大豆からとうもろこしに作付けを切り替えるとみられる。

同「Crop Progress」（2025.6.16）によれば、6 月 15 日現在、とうもろこしの出芽進捗率は 94%と、前年同期（92%）を上回り、過去 5 年平均（94%）と同水準となった。作柄評価は「良～優良」の割合が 72%と、前週（71%）から 1 ポイント上昇し、前年同期（72%）と同水準となった。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加等により、前年度比 1.1%増の 324.8 百万トンとなり、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け、前年度より 1.0%増の 68.0 百万トンの見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 9 月～2025 年 5 月の輸出量は 4,905.8 万トンで、前年同期（3,792.5 万トン）より 29.4%増。国別には、メキシコ 1,612.0 万トン（32.9%）、日本 970.6 万トン（19.8%）、コロンビア 549.0 万トン（11.2%）の順となっている。

同「Grain: World Markets and Trade」（2025.6.12）によれば、米国産の輸出価格は、6 月 9 日現在、良好な作柄見通し等を受けて、前月から 8 ドル/トン下落し、200 ドル/トンとなった。なお、アルゼンチン産は前月から 14 ドル/トン下落し 193 ドル/トン、ブラジル産は前月から 6 ドル/トン下落し 201 ドル/トンとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 1.3 百万トン下方修正され、生産量の増加を受け、前年度から 28.2%増、過去 5 年平均（36.1 百万トン）から 23.2%増の 44.5 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 2.4 ポイント増の 11.3%となる見込み。

とうもろこし－米国

（概ね 4～5 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年9月～26年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	389.7	377.6	401.9	-	6.4
消費量	321.9	321.1	324.8	-	1.1
うち飼料用 エタノール用等	147.5	146.1	149.9	-	2.6
輸 出 量	58.2	67.3	68.0	-	1.0
輸 入 量	0.7	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	44.8	34.7	44.5	▲ 1.3	28.2
期末在庫率	11.8%	8.9%	11.3%	▲ 0.3	2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.01	33.55	35.37	-	5.4
単収(t/ha)	11.13	11.26	11.36	-	0.9

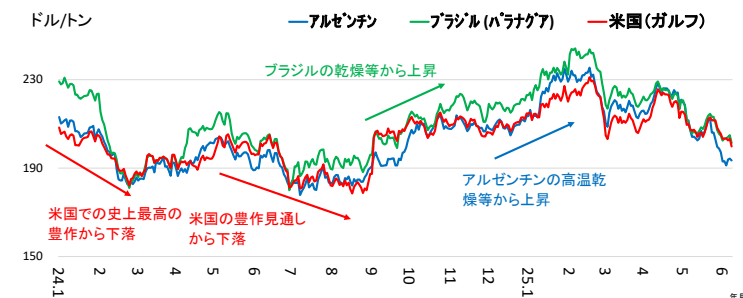
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 June 2025）

表 米国のとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年9月～2024年8月)			2023/24年度 (2023年9月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年5月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	2,090.4	39.9	メキシコ	1,552.3	40.9	メキシコ	1,612.0	32.9
日本	1,109.2	21.2	日本	747.4	19.7	日本	970.6	19.8
コロンビア	612.1	11.7	コロンビア	466.6	12.3	コロンビア	549.0	11.2
中国	286.0	5.5	中国	268.1	7.1	韓国	434.6	8.9
韓国	234.9	4.5	韓国	164.7	4.3	スペイン	202.7	4.1
その他	910.9	17.4	その他	593.4	15.6	その他	1,136.9	23.2
合計	5,243.5	100.0	合計	3,792.5	100.0	合計	4,905.8	100.0

資料：USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 0.8%増の 131.0 百万トンと、史上 2 番目の生産量となる見込み。なお、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、2023/24 年度から 9.2%増の 130.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.6.12）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 11.0%増の 128.3 百万トンの見込み。5 月末現在、夏とうもろこし（ブラジルのクロップカレンダー（図）参照）の収穫進捗率は、生産地域の大半において降雨量の減少により作業が順調に進んだ結果、89.6%に達した。夏とうもろこしの生産量は、良好な気象条件及び生産技術の向上による単収増等を受けて、前年度比 8.1%増の 24.8 百万トンの見込み。また、冬とうもろこしは、主要生産地のマット・グロッソ州、マット・グロッソ・ド・スール州で収穫が開始され、5 月の降雨量の減少が成熟に良好な条件となるなどし、作柄は良好。一方、今後新たに降雨がなければ、特にミナスジェライス州、サンパウロ州、ゴイアス州の一部地域など作付作業が遅れた地域では単収が減少する可能性がある。しかしながら、全体の単収は前年度を上回ると見込まれており、冬とうもろこしの生産量は、前年度比 11.8%増の 103.4 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用及びエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより、前年度から 2.2%増の 93.0 百万トンと、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、主にエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより増加が抑制され、前年度と同水準の 43.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2025 年 3～5 月の輸出量は 108.5 万トンで、前年同期（90.3 万トン）と比べ 20.1%増。国別には、イラン 47.8 万トン（44.1%）、サウジアラビア 27.5 万トン（25.3%）、ヨルダン 8.1 万トン（7.5%）の順となっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.01 百万トン上方修正され、消費量の増加を受け、前年度から 56.8%減、過去 5 年平均（6.6 百万トン）から 61.0%減の 2.6 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 2.6 ポイント減の 1.9%となる見込み。

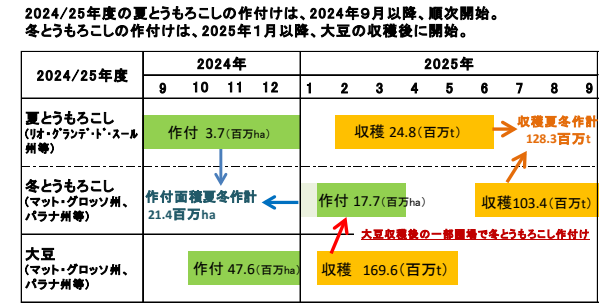
とうもろこしーブラジル

（夏とうもろこしは、概ね 8～翌年 1 月に作付けされ、2～4 月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1～3 月に作付けされ、6～10 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年3月～27年2月)			
			予測値、() はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	119.0	130.0	131.0 (-)	-	0.8	
消 費 量	84.0	91.0	93.0 (-)	-	2.2	
うち飼料用	62.5	64.5	65.5 ...	-	1.6	
輸 出 量	38.3	43.0	43.0 (-)	-	-	
輸 入 量	1.7	1.5	1.6 (-)	-	6.7	
期末在庫量	8.5	6.0	2.6 (-)	0.01	▲ 56.8	
期末在庫率	6.9%	4.5%	1.9% (-)	0.01	▲ 2.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	21.65	22.30	22.60 (-)	-	1.3	
単収(t/ha)	5.50	5.83	5.80 (-)	-	▲ 0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
CONAB「Graos」(12 June 2025)

図 ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）



資料：CONAB「Graos」(2025.6.12) をもとに農林水産省にて作成

表 ブラジルのとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年 3 月～2025年 2 月)			2023/24年度 (2024年 3 月～2024年 5 月)			2024/25年度 (2025年 3 月～2025年 5 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	601.1	15.7	イラン	19.0	21.1	イラン	47.8	44.1
イラン	536.9	14.1	エジプト	11.8	13.0	サウジアラビア	27.5	25.3
ベトナム	450.9	11.8	アルジェリア	9.0	10.0	ヨルダン	8.1	7.5
韓国	243.3	6.4	コスタリカ	8.2	9.0	エジプト	8.0	7.3
日本	214.3	5.6	中国	7.3	8.1	アルジェリア	4.4	4.0
その他	1,772.8	46.4	その他	35.0	38.7	その他	12.8	11.8
合計	3,819.4	100.0	合計	90.3	100.0	合計	108.5	100.0

資料：ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度と比べ 6.0%増、過去 5 年平均（49.0 百万トン）から 8.2%増の 53.0 百万トンとなる見込み。前年度は病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしたが、被害の改善により 2025/26 年度は作付面積が回復する見込み。なお、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、2023/24 年度より 2.0%減の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）の月報及び週報（2025.6.19）によれば、早植えとうもろこしは 1 月の干ばつにより単収が低かったものの、遅植えとうもろこしは開花期の降雨により、作柄が改善した。また、6 月 19 日現在のとうもろこしの収穫進捗率は 57%で、前年同期（61%）を下回っている。主要生産州では、サンタフェ州で 78%、ブエノスアイレス州で 62%、コルドバ州で 61%、ラ・パンパ州で 32%となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け、前年度から 2.6%増の 15.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け、前年度より 7.2%増の 37.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年 3～5 月の輸出量は 989.8 万トンで、前年同期（1,128.1 万トン）より 12.3%減。国別には、ベトナム 171.3 万トン（17.3%）、ペルー 114.9 万トン（11.6%）、エジプト 111.3 万トン（11.2%）の順となっている。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12 %へ引き上げ、2025 年 1 月 27 日以降は一時的にとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げていたが、6 月 30 日に引き下げ措置の適用期限を迎え、7 月 1 日以降、とうもろこしの輸出税は 12 %に戻る見込み。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、生産量の増加を受け、前年度から 14.7%増、過去 5 年平均（3.1 百万トン）から 3.1%増の 3.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 0.5 ポイント増の 6.1%となる見込み。

とうもろこしーアルゼンチン

（早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3～8 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年3月～27年2月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.0	50.0	53.0 (59.1)	-	6.0	
消 費 量	14.6	15.2	15.6 (20.9)	-	2.6	
うち飼料用	10.4	10.8	11.2 (15.9)	-	3.7	
輸 出 量	36.3	34.5	37.0 (38.0)	-	7.2	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	2.5	2.8	3.2 (1.6)	0.4	14.7	
期末在庫率	4.9%	5.6%	6.1% (2.7%)	0.8	0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.78	6.40	7.50 (8.22)	-	17.2	
単収(t/ha)	6.56	7.81	7.07 (7.20)	-	▲ 9.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC 「Grain Market Report」(22 May 2025)

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年 3 月～2025年 2 月)			2023/24年度 (2024年 3 月～2024年 5 月)			2024/25年度 (2025年 3 月～2025年 5 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
ベトナム	667.8	18.4	ベトナム	215.5	19.1	ベトナム	171.3	17.3
ペルー	433.1	11.9	韓国	139.1	12.3	ペルー	114.9	11.6
マレーシア	333.6	9.2	ペルー	106.9	9.5	エジプト	111.3	11.2
韓国	282.2	7.8	マレーシア	98.8	8.8	アルジェリア	97.4	9.8
アルジェリア	280.1	7.7	アルジェリア	96.6	8.6	マレーシア	96.2	9.7
その他	1,628.2	44.9	その他	471.3	41.8	その他	398.6	40.3
合計	3,624.9	100.0	合計	1,128.1	100.0	合計	989.8	100.0

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに農林水産省にて作成

写真 サンタフェ州の集荷及び貯蔵施設（2025 年 5 月 26 日撮影）



撮影者：José Daniel Peloni

とうもろこしと大豆の収穫作業はほぼ同時期（3～5月）に行われ、貯蔵施設の容量が不足することから、敷地内に約 100 個のサイロバッグを設置し、主に乾燥とうもろこしを保管している。

＜ ウクライナ ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収及び収穫面積の増加を受け、高温乾燥等の影響により生産量が減少した前年度から 13.8%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去 5 年平均（2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン）と比べ 9.4%減の 30.5 百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、5 月末現在のとうもろこしの生育ステージは、西部において一部出芽期の圃場があるものの、主に 3～9 葉期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受け、前年度から 21.0%増の 6.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の回復を受けて、前年度から 9.1%増の 24.0 百万トンとなる見込み。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 5 月の輸出量は 1,772.0 万トンと、前年同期（2,389.9 万トン）より 25.9%減。国別には、トルコ 471.3 万トン（26.6%）、イタリア 247.7 万トン（14.0%）、スペイン 240.7 万トン（13.6%）の順となっている。なお、2024 年 10 月～12 月の輸出量は 708.3 万トンと前年同期比で 2.1%増の一方、2025 年 1 月～5 月の輸出量は 1,063.8 万トンと前年同期比で 37.3%減となっており、年度当初に比べ輸出のペースが低下している。

2022 年 6 月より適用されてきた EU のウクライナ産品に対する輸入関税と輸入割当の停止措置が 6 月 5 日に適用期限を迎え失効し、欧州委員会は、6 月 6 日、深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)を含む連合協定に基づき関税割当制度の適用を再開した。有効期間は 6 月 6 日～12 月末までの約 7 か月間であり、とうもろこしの割当量は、年間基準量（65 万トン）の 7／12 となる約 38 万トン。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により、前年度から 93.5%増となるものの、ロシアの侵攻前の 5 か年平均（2.5 百万トン）からは 76.2%減の 0.6 百万トンの見込み。2025/26 年度の期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント増の 2.0%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

（概ね 4～5 月に作付けされ、8 月～11 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	32.5	26.8	30.5 (30.0)	-	13.8	
消 費 量	5.4	5.2	6.2 (4.7)	-	21.0	
うち飼料用	4.5	4.2	5.3 (3.3)	-	26.2	
輸 出 量	29.5	22.0	24.0 (25.2)	-	9.1	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	0.6	0.3	0.6 (0.9)	-	93.5	
期末在庫率	1.8%	1.1%	2.0% (3.2%)	-	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.20	4.10	4.20 (4.19)	-	2.4	
単収(t/ha)	7.74	6.54	7.26 (7.16)	-	11.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC 「Grain Market Report」(22 May 2025)

表 ウクライナのとうもろこし輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2023/24年度 (2023年10月～2024年 9 月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年 5 月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年 5 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	617.4	21.0	スペイン	516.9	21.6	トルコ	471.3	26.6
中国	461.9	15.7	中国	439.9	18.4	イタリア	247.7	14.0
エジプト	361.9	12.3	エジプト	312.7	13.1	スペイン	240.7	13.6
オランダ	277.7	9.4	オランダ	190.0	8.0	オランダ	173.4	9.8
イタリア	253.0	8.6	イタリア	182.6	7.6	エジプト	157.5	8.9
その他	975.1	33.1	その他	747.8	31.3	その他	481.4	27.2
合計	2,947.0	100.0	合計	2,389.9	100.0	合計	1,772.0	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

写真 西部リヴィウ州のとうもろこしの圃場
(2025 年 6 月 2 日撮影)



当農場では今年、とうもろこしを 2,000ha 作付け。種子は主に工場で殺菌処理されたものを利用している。現在の生育ステージは 5～7 葉期であり、状態は良好。

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加を受け、前年度から 0.03%増、過去 5 年平均（278.8 百万トン）から 5.8%増の 295.0 百万トンとなり、史上最高を更新する見込み。

中国中央气象台「農業気象週報」（2025.6.9）によれば、6 月上旬、主産地である東北部では、一部地域で豪雨の影響を受けたものの、大部分において生育に適した天候となった。同「作物生育期監視」によれば、6 月中旬、東北部における春とうもろこしの生育ステージは、主に 7 葉期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の増加を受け、前年度より 1.6%増の 321.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、中国農業農村部「中国農業展望報告（2025－2034）」（2025.4）（以下、「展望報告」という。）によれば、飼料用とうもろこしの需要は、今後、畜産物単位当たりの飼料消費量の減少に伴い、減少に転じる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、大幅に輸入量が減少した前年度から 42.9%増の 10.0 百万トンとなる見込み。中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 4 月の輸入量は、前年同期比 93.2%減の 133.0 万トン。国別には、ブラジル 72.4 万トン（54.5%）、ウクライナ 20.4 万トン（15.3%）、ミャンマー18.4 万トン（13.8%）の順となっている。展望報告によれば、輸入量の減少は、国内の供給が安定し国内価格が低下したことによる。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 4 月号」によれば、4 月の国内価格は、前月から横ばいの 2,260 元/トン。農家のとうもろこし在庫の余剰が少なく、市場需要が旺盛なため、今後、価格は安定基調ながら上昇傾向となる見込み。

中国国務院関税税則委員会は、4 月 12 日以降、米国のとうもろこしに対して計 140%の追加関税を課していたが、その後の米中共同声明を受け、5 月 14 日から、計 25%の追加関税を課することとなった（詳細は P.8 小麦－中国を参照）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、消費量の増加を受け、前年度より 8.1%減、過去 5 年平均（205.9 百万トン）から 12.0%減の 181.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 6.0 ポイント減の 56.4%となる見込み。

とうもろこし－中国

（春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

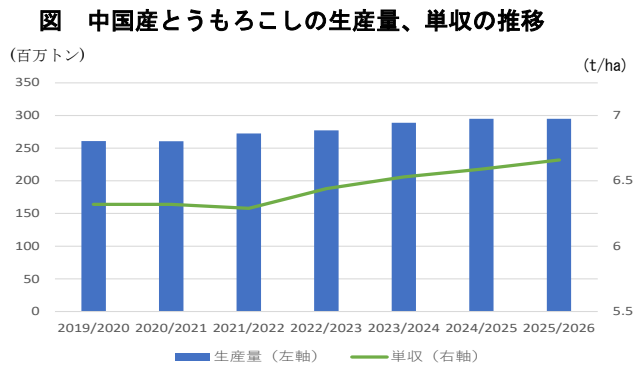
(単位：百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26（25年10月～26年9月）			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	288.8	294.9	295.0 (299.5)	-	-	0.03
消 費 量	307.0	316.0	321.0 (313.2)	-	-	1.6
うち飼料用	225.0	234.0	239.0 (211.0)	-	-	2.1
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	-
輸 入 量	23.4	7.0	10.0 (8.0)	-	-	42.9
期末在庫量	211.3	197.2	181.2 (178.4)	▲ 1.0	▲ 8.1	
期末在庫率	68.8%	62.4%	56.4% (57.0%)	▲ 0.3	▲ 6.0	

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.22	44.74	44.30 (44.90)	-	▲ 1.0
単収 (t/ha)	6.53	6.59	6.66 (6.67)	-	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC「Grain Market Report」(22 May 2025)



資料：USDA「PS&D」(2025. 6. 12)を基に農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2023/24 年度 (2023年10月～2024年 9 月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年 4 月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年 4 月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	1,502.3	64.4	ブラジル	1,476.8	75.3	ブラジル	72.4	54.5
ウクライナ	456.5	19.6	ウクライナ	226.3	11.5	ウクライナ	20.4	15.3
米国	298.8	12.8	米国	192.5	9.8	ミャンマー	18.4	13.8
ミャンマー	19.8	0.8	ミャンマー	19.0	1.0	ロシア	11.1	8.3
ブルガリア	18.2	0.8	ブルガリア	15.3	0.8	ラオス	6.2	4.7
ロシア	15.6	0.7	ロシア	11.5	0.6	米国	2.7	2.0
その他	21.8	0.9	その他	19.8	1.0	その他	1.8	1.4
計	2,332.9	100.0	計	1,961.2	100.0	計	133.0	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省にて作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し>

2025/26 年度

生産量

前年度比

前月比

消費量

前年度比

前月比

輸出量

前年度比

前月比

期末在庫量

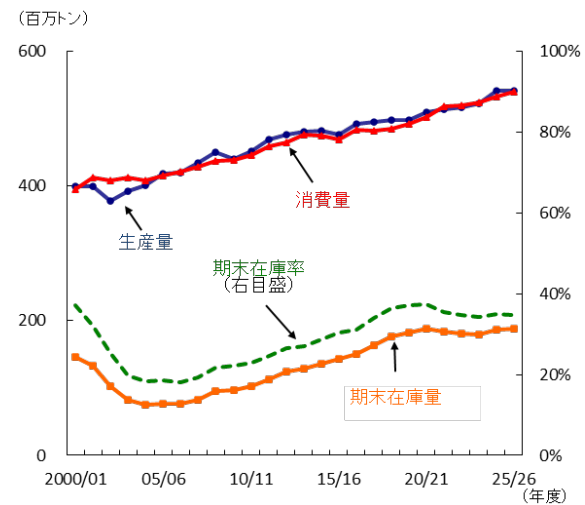
前年度比

前月比

・米国で下方修正されたものの、インドで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

・米国、アフガニスタン等で下方修正されたものの、インド、ギニア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

・パキスタンで下方修正されたものの、インド、中国、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。



資料：USDA「PS&D」（2025. 6. 12）をもとに農林水産省にて作成

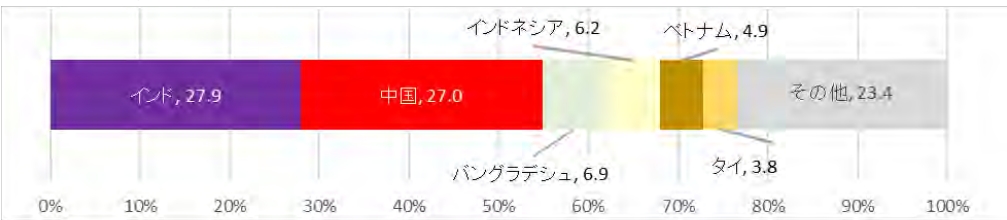
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

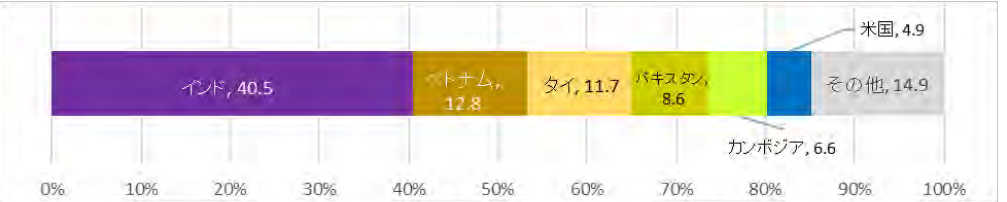
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	523.7	541.2	541.6	2.9	0.1
消 費 量	524.7	533.7	541.1	2.3	1.4
輸 出 量	56.8	61.9	61.7	0.9	▲ 0.3
輸 入 量	53.4	58.1	58.9	0.3	1.3
期末在庫量	179.8	187.3	187.8	2.8	0.3
期末在庫率	34.3%	35.1%	34.7%	0.4	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 June 2025)

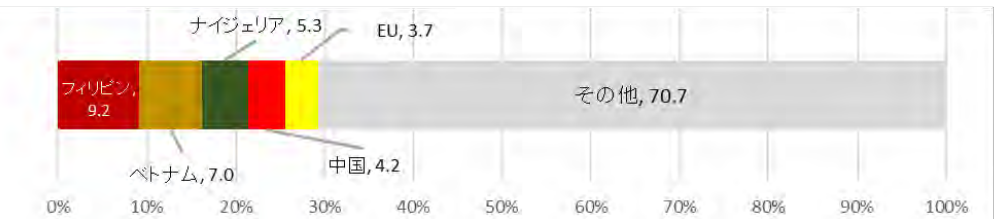
○ 2025/26年度 世界のコメの生産量 (541.6百万トン) (単位：%)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸出量 (61.7百万トン) (単位：%)



○ 2025/26年度 世界のコメの輸入量 (58.9百万トン) (単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度から 8 万ヘクタール減少（前年度比 0.7%減）することから、前年度に比べ 0.7%減の 20.4 百万トン（見込み）。単収は、過去最高の 2.86 トン/ヘクタールを維持する見込み。一方、同「Grain and Feed Annual」（2025.4.4）によれば、2025/26 年度の実生産量は、乾季米の作付拡大と安定した単収に支えられ、20.7 百万トンの微増と予測している。

タイ農業協同組合農業経済局「農業経済」（2025.5）によれば、2025/26 年度の雨季米（2025 年 5 月～10 月作付け）の作付面積は、前年度（992 万ヘクタール）から微減の 991 万ヘクタールとなる見込み。2024/25 年度の乾季米（2024 年 11 月～2025 年 4 月作付け）の作付面積は、エルニーニョによる少雨の影響を受けた前年度（163 万ヘクタール）に比べ、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水の供給があることから 16%増の 186 万ヘクタールと予測されている。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.5）によれば、乾季米の収穫はほぼ終了し、生産量は、作付面積が 210 万ヘクタールに拡大したことと十分な灌漑用水の供給により、昨年に比べ約 26%増と予測している。雨季米は、一部地域で作付けが開始されているが、コメ価格の下落により作付面積は減少すると予測されている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.6.16）によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からは変更はなく、コメ価格の低下及び潤沢な供給量を背景に、前年度から 2.9%増加し、7.2 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024/25 年度のうち 2025 年 1～4 月の輸出量は、前年同期比 30.5%減の 239.3 万トンで、国別には、イラク 37.4 万トン（15.6%）、米国 28.6 万トン（11.9%）、南アフリカ 20.3 万トン（8.5%）の順となっている。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、0.3 万トンと大幅に減少し、前年同期比で 97%減となった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、政府の大規模備蓄計画を受け、前年度比 18.1%増の 3.9 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 2.7 ポイント増の 19.7%となる見込み。

コメント

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年1月～26年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	20.0	20.6	20.4 (20.4)	-	▲ 0.7	
消 費 量	12.3	12.5	12.7 (12.7)	-	1.2	
輸 出 量	9.9	7.0	7.2 (7.6)	-	2.9	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.02)	-	-	
期末在庫量	2.2	3.3	3.9 (3.3)	-	18.1	
期末在庫率	10.0%	17.0%	19.7% (16.2%)	-	2.7	

(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.65	10.88	10.80 (10.80)	-	▲ 0.7	
単収(概t/ha)	2.85	2.86	2.86 (1.89)	-	-	
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 June 2025) IGC「Grain Market Report」(22 May 2025)（単収は精米t/ha）						

写真 北部チェンライ県メーラオ郡の圃場



(6月6日撮影)

乾季米収穫後の圃場。5月25日に、高収量品種のもち米（Hom Nakha）を収穫。

表 タイのコメの輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～4月)			2024/25年度 (2025年1月～4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	133.3	13.4	インドネシア	79.2	23.0	イラク	37.4	15.6
イラク	99.7	10.0	イラク	31.1	9.0	米国	28.6	11.9
米国	84.8	8.5	米国	28.1	8.2	南アフリカ	20.3	8.5
南アフリカ	83.3	8.4	中国	20.3	5.9	中国	19.9	8.3
フィリピン	61.8	6.2	モザンビーク	14.4	4.2	セネガル	12.1	5.0
セネガル	46.2	4.6	香港	12.7	3.7	アンゴラ	8.6	3.6
その他	485.4	48.8	その他	158.8	46.1	その他	112.5	47.0
計	994.5	100.0	計	344.6	100.0	計	239.3	100.0

資料：タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 3.4%減となる見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、収穫面積が前月予測から0.03百万トン下方修正されたことを受け、前月予測から0.2百万トン下方修正され、前年度比3.4%減の6.8百万トンの見込み。種類別では、長粒種は、南部主要生産6州における作付面積の減少により、前月予測から0.2百万トン下方修正され、前年度比7%減の5.1百万トン、中・短粒種は、南部生産州の作付面積減をカリフォルニア州の作付面積増が相殺し、前月予測から0.08百万トン上方修正され1.7百万トンと、前年度比で9%増加する見込み。

同「Crop Progress」(2025.6.16)によれば、南部主要生産6州の6月15日時点の発芽進捗率は97%と、前年同期(96%)、過去5年平均(96%)よりやや進捗している。カリフォルニア州の発芽進捗率は、90%と、前年同期(82%)、過去5年平均(87%)に比べ進捗は早い。南部主要生産6州の作柄評価は「良～優良」が74%と、前年同期(83%)を下回る。この要因として、長粒種の主要生産州であるアーカンソー州が、今春の作付期に降雨過多の影響を受けた可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」(2025.6.16)によれば、2025/26年度の輸入量は、米国産長粒種の生産量減を受け、碎米の輸入増が予測されることから、前月予測から0.1百万トン上方修正された。タイやインドからの香り米の輸入継続が予測され、前年度に比べ4.5%増の1.6百万トンとなる見込み。2025/26年度の輸出量は、米国における中・短粒種の生産増及び価格競争力強化を受け、前月予測から0.03百万トン上方修正されたものの、前年度からは変わらず3.0百万トンの見込み。

同「Exports Sales Query System」(2025.6)によれば、2024/25年度のうち2024年8月～2025年5月の輸出量は253.8万トンで、主な輸出先国は、メキシコ61.3万トン(24.2%)、日本31.0万トン(12.2%)、ハイチ25.0万トン(9.9%)の順。種類別には、長粒種は、輸出量186.4万トンで、主な輸出先国は、メキシコ56.1万トン(国別シェア30.1%)、ハイチ25.0万トン(同13.4%)、ホンジュラス22.6万トン(同12.1%)。中・短粒種は、輸出量67.4万トンで、主な輸出先国は、日本31.0万トン(国別シェア46.0%)、韓国12.3万トン(同18.3%)、ヨルダン6.5万トン(同9.6%)。

2025/26年度の期末在庫量は、前月予測から0.03百万トン下方修正されたものの、前年度に比べ2.8%増加し、1.5百万トンと2014/15年以来の高水準となる見込み。期末在庫率は、前年度より0.5ポイント増の17.6%となる見込み。

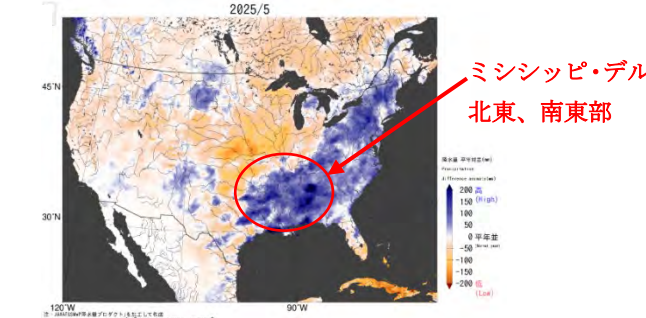
コメー米国

長粒種の生産量が7割を占め、中・短粒種の生産量は3割、その内、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.9	7.1	6.8	▲ 0.2	▲ 3.4
消費量	4.9	5.4	5.4	▲ 0.1	▲ 0.6
輸出量	3.1	3.0	3.0	0.03	-
輸入量	1.4	1.5	1.6	0.1	4.5
期末在庫量	1.3	1.4	1.5	▲ 0.03	2.8
期末在庫率	15.8%	17.1%	17.6%	▲ 0.2	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.16	1.16	1.12	▲ 0.03	▲ 3.4
単収(kg/ha)	8.56	8.69	8.68	0.02	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)

図 米国の降水量(平年対差)(2025年5月)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

表 米国のコメの輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)		2023/24年度 (2023年8月～2024年5月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年5月)	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア
メキシコ	93.3 28.0	メキシコ	75.2 27.1	メキシコ	61.3 24.2
ハイチ	36.0 10.8	ハイチ	31.6 11.4	日本	31.0 12.2
日本	29.7 8.9	日本	22.1 8.0	ハイチ	25.0 9.9
ベネズエラ	21.7 6.5	ベネズエラ	21.1 7.6	ホンジュラス	22.6 8.9
ホンジュラス	20.2 6.1	イラク	17.5 6.3	イラク	17.6 6.9
イラク	17.5 5.2	コロンビア	16.8 6.0	韓国	12.3 4.9
その他	114.8 34.5	その他	93.4 33.6	その他	83.9 33.1
計	333.2 100.0	計	277.7 100.0	計	253.8 100.0

資料：USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、農作物の生産性向上との政府計画に沿って、作付面積が安定し、単収が向上するとの予測から、前年度比 0.5%増の 146 百万トン（精米ベース）となる見込み。中国政府は、穀物生産を国家戦略上の優先課題とし、単収向上に重点を置いた国内支援プログラムを通じ、国内生産の拡大を継続的に推進している。

現地報道によれば、6 月 5 日時点で、湖南省では、早稲が分けつ期から穂ばらみ期に入り、出穂に向けた準備段階にあるとのこと。

中国中央气象台（2025.6）によれば、6 月 9 日の週に、黒龍江省及び吉林省で、局地的な豪雨が発生し、コメの生長に遅れが生じているとのこと。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度比 0.01%増とほぼ横ばいの 146.1 百万トンとなる見込み。消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少していた。

2025/26 年度の輸入量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、国際市場におけるコメ価格の下落と国内コメ価格の高止まりを要因として、ミャンマー、タイ、ベトナム及びインドといった伝統的なインディカ米供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 8.9%増の 2.5 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 4 月までの輸入量は、181.6 万トンと、前年同期（128.2 万トン）と比べ 41.6%増となっている。国別には、ミャンマー52.8 万トン（29.1%）、タイ 44.1 万トン（24.3%）、ベトナム 37.7 万トン（20.7%）の順となっている。

USDA 「Rice Outlook」（2025.6.16）によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、前年度比 10.0%減の 0.9 百万トンの見込み。これは価格競争力の高いインドや他のアジア産米との競争と軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されるため。

2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加予測を受け、前年度比 1.4%増の 105.0 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.1 ポイント増の 71.5%となる見込み。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域（華南、華中、西南高原地域）で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

(単位：百万精米トン)						
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年 7 月～26年 6 月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	144.6	145.3	146.0 (146.0)	-	0.5	
消 費 量	148.1	146.0	146.1 (145.5)	0.1	0.01	
輸 出 量	1.6	1.0	0.9 (1.9)	0.1	▲ 10.0	
輸 入 量	1.5	2.3	2.5 (2.4)	0.1	8.9	
期末在庫量	103.0	103.5	105.0 (102.8)	-	1.4	
期末在庫率	68.8%	70.4%	71.5% (69.7%)	▲ 0.1	1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	28.95	29.01	29.00 (29.00)	-	▲ 0.03	
単収(粳t/ha)	7.14	7.15	7.19 (5.03)	-	0.6	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」 (12 June 2025) IGC 「Grain Market Report」 (22 May 2025) (単収は精米t/ha)						

表 中国のコメの輸入量と輸入先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ベトナム	46.1	30.2	タイ	38.7	30.2	ミャンマー	52.8	29.1
タイ	44.3	29.0	ベトナム	37.5	29.3	タイ	44.1	24.3
ミャンマー	36.4	23.8	ミャンマー	29.7	23.2	ベトナム	37.7	20.7
カンボジア	12.8	8.4	カンボジア	11.1	8.7	インド	18.5	10.2
パキスタン	7.3	4.8	パキスタン	5.6	4.4	パキスタン	17.0	9.4
インド	3.0	2.0	インド	3.0	2.3	カンボジア	7.7	4.2
その他	2.8	1.8	その他	2.6	2.0	その他	3.8	2.1
合計	152.7	100.0	合計	128.2	100.0	合計	181.6	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< インド > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積が前月予測から 0.5 百万ヘクタール上方修正されたことを受け、3.0 百万トン上方修正され、151.0 百万トンと、前年度比で 0.7%増加、過去 5 年平均（135.5 百万トン）と比べ 11.5%増加し、史上最高の見込み。

同「Rice Outlook」（2025.6.16）によれば、収穫面積の上方修正は、インド政府による最低支持価格の 3 %引き上げ公表と、南西モンスーンの開始が 8 日間早まったことにより、作付面積が増加するとみられることによる。

インド農業・農民福祉省によれば、2024/25 年度のラビ米の作付面積は、4.2 百万ヘクタール（前年度比 4.6%増）。2025/26 年度の夏季米は、3.5 百万ヘクタール（前年度比 4.8%増）の見込み。またカリフ米の作付けは開始されたばかりで、6 月 13 日現在、作付面積は 4.53 百万ヘクタール（前年同期比 13.25%増）となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、前年度比 3.7%増の 126.5 百万トンとなる見込み。世界第 2 位のコメ消費国であるインドは、大量供給により 4 年連続で消費量増加が見込まれている。また、生産量増により、政府は食料安全保障法に基づく公的食料配給制度（PDS）の継続実施が可能となっている。政府は PDS により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。本年度もより多くのコメが国民に供給される見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度から変わらず 25.0 百万トンの見込み。同「Rice Outlook」（2025.6.16）によれば、インド産コメ価格が他国産米に比べ競争力があり、世界的な安定需要が見込まれることから、世界第 1 位の輸出シェア（40.5%）を維持すると予測されている。インド輸出入統計によれば、2024 年 4 月～2025 年 3 月の輸出量は 2,019.4 万トンで、国別には、ベナン 225.5 万トン（11.2%）、サウジアラビア 138.3 万トン（6.8%）、ギニア 113.4 万トン（5.6%）の順となっている。

USDAによれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、44.5 百万トン。政府備蓄米放出等により、前年度に比べ 1.1%減少するものの、政府が望む在庫水準（13.58 百万トン）は大幅に上回る見込み。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、2025 年 5 月時点の期末在庫量は、38.15 百万トン（精米）と前年同期比で 19.6%増の見込み。

コメ・インド

カリフ米：雨季/モンスーン期（5～10 月）に栽培。
ラビ米：冬季の 11 月～翌 3 月に栽培。
夏季米：3～6 月に栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年 9 月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	137.8	150.0	151.0 (148.0)	3.0	0.7	
消 費 量	116.4	122.0	126.5 (123.2)	1.5	3.7	
輸 出 量	14.4	25.0	25.0 (23.9)	1.0	-	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	42.0	45.0	44.5 (45.5)	2.0	▲ 1.1	
期末在庫率	32.1%	30.6%	29.4% (31.0%)	0.9	▲ 1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.83	51.00	51.00 (51.00)	0.5	-	
単収(稲 t/ha)	4.32	4.41	4.44 (2.90)	0.04	0.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)、
IGC「Grain Market Report」(22 May 2025)（単収は精米 t/ha）

写真 北西部ハリヤナ州ソニパット郡の圃場



（6 月 1 日撮影）

ハリヤナ州は、水稻と小麦の二毛作地域。移植（田植え）の準備が進む水田に囲まれた稲の苗床。

表 インドのコメの輸出量と輸出先国

2022/23年度 (2022年4月～2023年3月)			2023/24年度 (2023年4月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年4月～2025年3月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
ベナン	155.9	7.0	ベナン	128.5	7.9	ベナン	225.5	11.2
中国	150.5	6.7	サウジアラビア	128.3	7.8	サウジアラビア	138.3	6.8
セネガル	133.3	6.0	ギニア	91.2	5.6	ギニア	113.4	5.6
コートジボワール	121.2	5.4	イラク	85.9	5.2	コートジボワール	112.4	5.6
サウジアラビア	102.9	4.6	トーゴ	71.3	4.4	イラク	93.1	4.6
イラン	107.5	4.8	ベトナム	69.4	4.2	トーゴ	90.3	4.5
その他	1,463.9	65.5	その他	1,061.6	64.9	その他	1,246.5	61.7
計	2,235.3	100.0	計	1,636.2	100.0	計	2,019.4	100.0

資料：インド農業・加工食品輸出振興局（APEDA）「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

< ベトナム > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は26.3百万トンと、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少により、前年度を2.4%下回る見込み。

ベトナム総統計局（2025.6.6）によれば、2025年（USDA：2024/25年度）の乾季米（冬春作）の作付面積は、全国で297.09万ヘクタールとなり、南部地域での作付面積増により、前年度に比べ1.70万ヘクタール増加した。そのうち、南部（メコンデルタ地域を含む）は、作付面積が191.88万ヘクタールで、前年度に比べ2.47万ヘクタール増。5月20日時点の、収穫面積は188.10万ヘクタールに達し、作付面積の98%となっている。乾季米の収穫と並行し、雨季米（夏秋作）の作付けが進んでおり、5月20日時点の南部の作付面積は125.83万ヘクタールで、前年同期（111.3%）と、良好な天候と、広範囲にわたる降雨を背景に例年に比べ作付けが早く進められた。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.5）によれば、北部の乾季米（冬春作）は、分けつ期と幼穂形成期にあり、良好な天候と灌漑設備の改善により単収は増加すると予測されている。メコンデルタ地域では、乾季米（冬春作）は収穫期を迎え、収穫面積は168万ヘクタールに達した。単収は7.1トン/ヘクタールに達し、前年と比べ0.1トン/ヘクタール増となっている。同地域では、雨季米（夏秋作）の作付作業がピークを迎えており、前年度並みの0.8百万ヘクタール。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.6.16）によれば、2025/26年度の輸入量は、カンボジアからの粳米（国内精米用）の大量輸入の継続から、前月予測から変更はなく、前年度に比べ2.5%増の4.1百万トンと、過去最高となる見込み。

2025/26年度の輸出量は、インドとの競争激化が予測されるものの、前月予測及び前年度からの変更はなく7.9百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2025年1月～5月の輸出量は420.0万トンと、前年同期（405.8万トン）に比べ3.5%増加。主な輸出先国は、フィリピン190.4万トン（45.3%）、コートジボワール48.6万トン（11.6%）、中国41.2万トン（9.8%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.6.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の6月9日までの週の価格は、アジアの主要コメ市場における需要減を受け、前月5月9日までの週から13ドル/トン下落し、386ドル/トンとなった。2025/26年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ7.4%減の3.1百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度より0.9ポイント減の10.2%となる見込み。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	(単位：百万精米トン)			
			2025/26 (26年1月～26年12月)	予 測 値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	27.2	27.0	26.3	(28.6)	-	▲ 2.4
消 費 量	22.5	22.7	22.8	(23.0)	-	0.4
輸 出 量	9.0	7.9	7.9	(8.0)	-	-
輸 入 量	3.7	4.0	4.1	(2.6)	-	2.5
期末在庫量	3.0	3.4	3.1	(2.2)	-	▲ 7.4
期末在庫率	9.5%	11.1%	10.2%	(7.2%)	-	▲ 0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.11	7.00	6.90	(7.18)	-	▲ 1.4
単収(精t/ha)	6.12	6.16	6.10	(3.99)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC「Grain Market Report」(22 May 2025) (単収は精米t/ha)

写真 南部キエンザン省ホアダット地区の圃場風景
(6月12日撮影)



5月12日にジャポニカ種（DS1）を作付けた圃場。稲は茎の伸長期～幼穂形成期にあり、順調に生長している。

表 ベトナムのコメの輸出量と輸出先国
(輸出量：万トン、シェア：%)

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～5月)			2024/25年度 (2025年1月～5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
フィリピン	422.1	46.6	フィリピン	183.2	45.2	フィリピン	190.4	45.3
インドネシア	125.7	13.9	インドネシア	67.7	16.7	コートジボワール	48.6	11.6
マレーシア	71.9	7.9	マレーシア	33.8	8.3	中国	41.2	9.8
ガーナ	61.3	6.8	中国	20.4	5.0	ガーナ	40.0	9.5
コートジボワール	48.3	5.3	ガーナ	19.8	4.9	マレーシア	18.1	4.3
中国	28.5	3.1	コートジボワール	19.6	4.8	バングラデシュ	10.5	2.5
その他	148.9	16.4	その他	61.3	15.1	その他	71.2	17.0
計	906.8	100.0	計	405.8	100.0	計	420.0	100.0

資料：ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 前月比

・米国、カナダ、アルゼンチン等で減少するも、ブラジル、パラグアイ、ロシア等で増加し、史上最高の見込み。

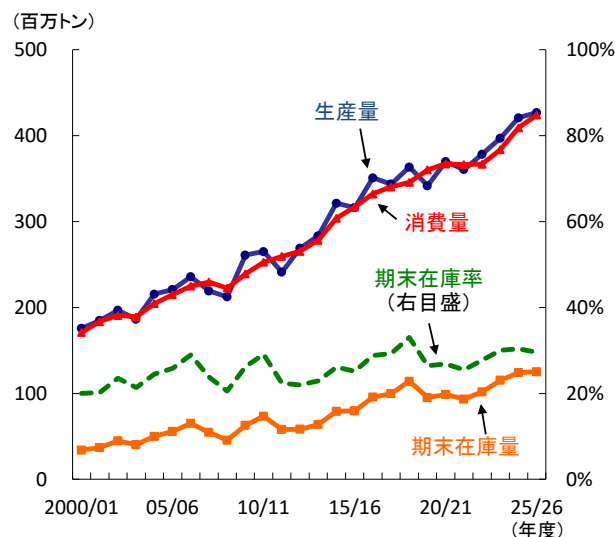
消費量 前年度比 前月比

・韓国、カナダ、EU 等で下方修正されたものの、中国、ブラジル、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・米国、カナダ、ウルグアイ等で減少するも、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン等で増加し、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



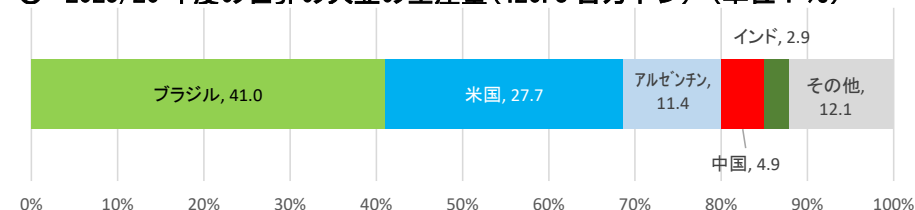
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

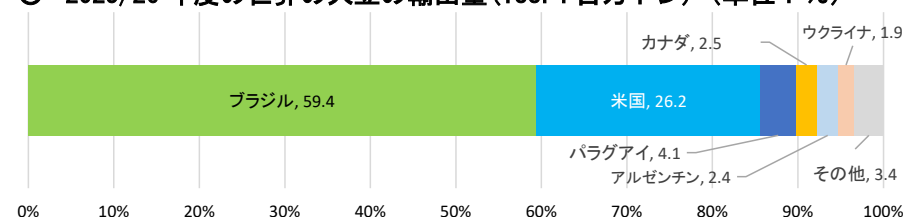
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	396.9	420.8	426.8	-	1.4
消費量	383.9	409.2	424.2	0.1	3.6
うち搾油用	331.0	353.2	366.6	0.1	3.8
輸出量	177.7	180.9	188.4	-	4.1
輸入量	178.1	178.3	186.9	0.04	4.8
期末在庫量	115.3	124.2	125.3	1.0	0.9
期末在庫率	30.0%	30.3%	29.5%	0.2	▲ 0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 June 2025）

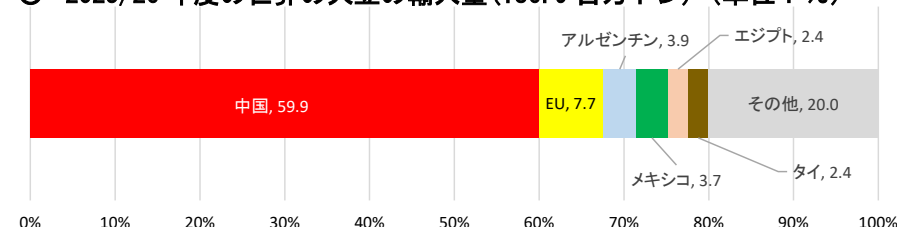
○ 2025/26 年度の世界の大豆の生産量(426.8 百万トン)（単位：%）



○ 2025/26 年度の世界の大豆の輸出量(188.4 百万トン)（単位：%）



○ 2025/26 年度の世界の大豆の輸入量(186.9 百万トン)（単位：%）



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 0.6%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け、前年度より 0.6%減の 118.1 百万トンの見込み。現在の価格相場はとうもろこしの作付けに有利であるため、多くの農家が大豆からとうもろこしの作付けに切り替えるとみられる。

同「Crop Progress」（2025.6.16）によれば、6 月 15 日現在、作付進捗率は 93%と前年同期（92%）を上回り、過去 5 年平均（94%）を下回っている。また、出芽進捗率は 84%と前年同期（80%）及び過去 5 年平均（83%）を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が 66%と、前年同期（70%）を下回っている。

報道（2025.6.17）によると、主要生産地であるイリノイ州、オハイオ州等では、生育初期における降雨過多及び低温の影響により、一部で生育不良がみられている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要等の増加を受け、前年度より 2.6%増の 70.8 百万トンと史上最高の見込み。これは、近年のバイオ燃料の国内需要の増加に伴い、搾油工場の建設計画が発表されていることによる。なお、2025/26 年度の大豆油由来のバイオ燃料の国内消費量は、2024/25 年度から 7.8%増のおよそ 6.3 百万トンに増加する見込み。

米国環境保護庁（EPA）は、6 月 13 日、再生可能燃料基準制度（RFS）について、2026～2027 年の混合基準量案を公表し、バイオ燃料混合総量を 2026 年は 240 億 2000 万ガロン、2027 年は 244 億 6000 万ガロンと過去最高の数量を設定しており、国内におけるバイオ燃料の利用拡大等が期待されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加が見込まれる南米と競合することを受け、前年度より 1.9%減の 49.4 百万トンの見込み。同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 9 月～2025 年 5 月の輸出量は 4,482.1 万トンと、前年同期（4,033.9 万トン）に比べ 11.1%増。国別には、中国 2,232.5 万トン（49.8%）、メキシコ 376.1 万トン（8.4%）、エジプト 286.2 万トン（6.4%）の順となっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費の増加等を受けて、前年度より 15.7%減の 8.0 百万トンと、過去 5 年平均（8.1 百万トン）を下回る見込み。期末在庫率は、前年度より 1.3 ポイント減の 6.7%となる見込み。

大豆－米国

（概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年 9 月～26年 8 月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	113.3	118.8	118.1	-	▲ 0.6
消費量	65.6	69.0	70.8	-	2.6
うち搾油用	62.2	65.9	67.8	-	2.9
輸出量	46.1	50.4	49.4	-	▲ 1.9
輸入量	0.6	0.7	0.5	-	▲ 20.6
期末在庫量	9.3	9.5	8.0	-	▲ 15.7
期末在庫率	8.3%	8.0%	6.7%	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.29	34.82	33.47	-	▲ 3.9
単収(t/ha)	3.40	3.41	3.53	-	3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 June 2025）

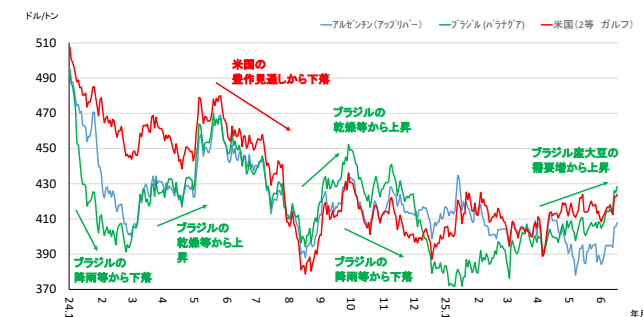
表 米国産大豆の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年 9 月～2024年 8 月)			2023/24年度 (2023年 9 月～2024年 5 月)			2024/25年度 (2024年 9 月～2025年 5 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	2,455.2	54.8	中国	2,412.3	59.8	中国	2,232.5	49.8
メキシコ	461.0	10.3	メキシコ	365.5	9.1	メキシコ	376.1	8.4
ドイツ	251.3	5.6	インドネシア	167.2	4.1	エジプト	286.2	6.4
インドネシア	227.9	5.1	ドイツ	164.9	4.1	ドイツ	207.9	4.6
日本	188.4	4.2	日本	158.8	3.9	イタリア	195.7	4.4
その他	897.2	20.0	その他	765.2	19.0	その他	1,183.8	26.4
合計	4,480.9	100.0	合計	4,033.9	100.0	合計	4,482.1	100.0

資料：USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」のデータをもとに農林水産省にて作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 3.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となること等から、前年度より 3.6%増の 175.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.6.12）によれば、2024/25 年度の実産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトしたこと等による作付面積の増加及び単収の増加から、前年度より 14.8%増の 169.6 百万トンの見込み。6 月第 1 週現在、収穫進捗率は 99.8%に達し、収穫はほぼ完了している。主要生産地のマツトグロッソ州では、良好な気象条件等により、生産量が 50.1 百万トンと、史上最高を記録した。なお、リオ・グランデ・ド・スール州では、生育期の干ばつの影響により一部未成熟なものがみられ、単収は 2.1 トン/ヘクタールとなった。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要等の増加を受けて、前年度より 2.0%増の 62.3 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加や中国等からの堅調な需要等により、前年度から 7.2%増の 112.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 5 月の輸出量は 6,079.4 百万トンと前年同期（6,279.4 百万トン）に比べ、3.2%減。国別には、中国 4,511.9 百万トン（74.2%）、スペイン 242.5 百万トン（4.0%）、タイ 215.6 百万トン（3.5%）の順となっている。なお、6 月は輸出最盛期となっている。

ブラジル政府は、バイオディーゼル混合基準について、植物油の価格高騰によるインフレ懸念を理由に、2025 年 3 月に予定していた、現行の 14%から 15%への引上げを延期している。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前年度の輸入量の増加を受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、生産量の増加を受けて、前年度より 2.5%増の 34.3 百万トンと、過去 5 年平均（31.4 百万トン）を上回る見込み。期末在庫率は、前年度より 0.5 ポイント減の 19.7%となる見込み。

大豆－ブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、0 は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	154.5	169.0	175.0 (－)	－	3.6
消 費 量	58.3	61.1	62.3 (－)	－	2.0
うち搾油用	54.4	57.0	58.0 (－)	－	1.8
輸 出 量	104.2	104.5	112.0 (－)	－	7.2
輸 入 量	0.9	0.3	0.2 (－)	－	▲ 46.4
期末在庫量	29.8	33.4	34.3 (－)	0.1	2.5
期末在庫率	18.3%	20.2%	19.7% (－)	0.1	▲ 0.5

(参考)
収穫面積(百万ha) 46.15 47.40 48.80 (－) 3.0
単収(t/ha) 3.35 3.57 3.59 (－) 0.6
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
CONAB「Graos」(12 June 2025)

表 ブラジル産大豆の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	7,820.2	75.1	中国	4,842.6	77.1	中国	4,511.9	74.2
スペイン	393.4	3.8	スペイン	218.9	3.5	スペイン	242.5	4.0
タイ	303.3	2.4	タイ	191.8	3.1	タイ	215.6	3.5
トルコ	248.4	2.9	トルコ	168.1	2.7	イラン	129.5	2.1
イラン	180.5	1.7	メキシコ	115.7	1.8	トルコ	128.3	2.1
その他	1,469.8	14.1	その他	742.3	11.8	その他	851.7	14.0
合計	10,415.6	100.0	合計	6,279.4	100.0	合計	6,079.4	100.0

資料：ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省にて作成

写真：マツトグロッソ州大豆倉庫（2025. 6. 1 撮影）



マツトグロッソ州カンボ・ノーヴォ・ド・パレシス市の穀物貯蔵施設の様子。

撮影者：Rafael Rohenkohl

＜ カナダ ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 4.2%減少する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.6.20）によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収が前年度より減少すること受け、前年度（7.6 百万トン）から 4.2%減の 7.3 百万トンの見込み。2025/26 年度の作付面積は、大豆価格の低下を受け、農家が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれ、前年度から減少するとみられる。

オンタリオ州農業食品省「Crop Condition」（2025. 6.12、6.19）によれば、主要生産地であるオンタリオ州では、降雨があった南西部及び東部の一部地域を除き作付けがほぼ完了している。東部では多雨に加え、5 月の気温が平年を下回ったことから出芽が遅れがみられており、さらに一部圃場では土壌水分の過多等による影響で再作付けが行われている。同州では 6 月 16 日現在、一部地域を除き、作柄は良好である。4 月に作付けされた大豆は、3 葉期から 4 葉期で、5 月中旬に作付けされた大豆は、2 葉期から 3 葉期を迎えている。

【需要状況】AAFC によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の減少等により、前年度（2.5 百万トン）から 8.7%減の 2.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度（5.4 百万トン）より 1.0%増の 5.5 百万トンとなる見込み。

カナダ統計局によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 4 月の輸出量は 464.9 万トンと、前年同期（428.5 万トン）に比べ 8.5%増。国別には、中国 100.5 万トン（21.6%）、イラン 76.5 万トン（16.5%）、アルジェリア 47.1 万トン（10.1%）の順となっている。

AAFC によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測及び前年度からの変更はなく、0.6 百万トンの見込み。期末在庫率は、前年度より 0.1 ポイント増の 7.2%となる見込み。

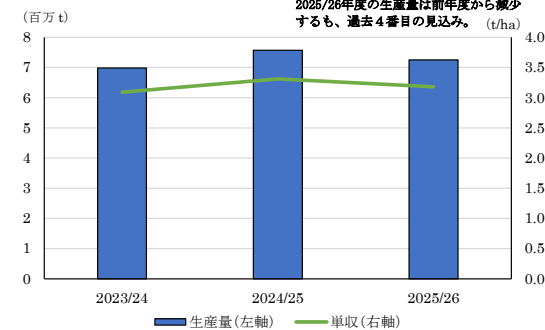
大豆－カナダ

（概ね 5 ～ 6 月に作付けされ、9 ～ 11 月に収穫される。）（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予 測 値、() は AAFC	前 月 予 測 からの 変 更	対 前 年 度 増 減 率 (%)
生 産 量	7.0	7.6	7.0 (7.3)	-	▲ 7.5
消 費 量	2.3	2.4	2.5 (2.3)	-	4.2
うち搾油用	1.7	1.6	1.7 (1.7)	-	9.7
輸 出 量	4.8	5.3	4.8 (5.5)	-	▲ 9.4
輸 入 量	0.3	0.3	0.4 (0.5)	-	20.0
期末在庫量	0.6	0.7	0.8 (0.6)	-	8.2
期末在庫率	7.9%	9.5%	10.8% (7.2%)	-	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.26	2.29	2.25 (2.28)	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.09	3.30	3.11 (3.18)	-	▲ 5.8

資料：USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」（12 June 2025）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（20 June 2025）

図 カナダ産大豆の生産量及び単収の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.6.20）をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量及び輸出先国

2023/24年度 (2023年 8 月～2024 年 7 月)			2023/24年度 (2023 年 8 月～2024 年 4 月)			2024/25年度 (2024 年 8 月～2025 年 4 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	152.9	31.6	中国	151.7	35.4	中国	100.5	21.6
アルジェリア	58.2	12.0	アルジェリア	54.9	12.8	イラン	76.5	16.5
イラン	52.3	10.8	イラン	52.3	12.2	アルジェリア	47.1	10.1
日本	33.9	7.0	日本	24.0	5.6	米国	30.3	6.5
インドネシア	27.7	5.7	インドネシア	21.9	5.1	日本	27.8	6.0
米国	21.7	4.5	イタリア	15.2	3.5	パングラディッシュ	26.1	5.6
その他	136.9	28.3	その他	108.6	25.3	その他	156.6	33.7
合計	483.6	100	合計	428.5	100	合計	464.9	100

資料：カナダ統計局のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 1.7%増の 21.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

中国農業農村部「2025 年 6 月中国農産物供需形勢分析」（2025.6.12）によれば、主要生産地の東北部の作付けはほぼ完了し、大部分の地域では気象条件が良好で生育初期に適した環境となっている。

中国中央气象台「作物生育期監視」によれば、東北部では 6 月 16 日現在、出芽期から 3 葉期を迎えている。
【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加を受けて、前年度より 4.8%増の 133.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国農業農村部「中国農業展望報告（2025－2034）」（2025.4）によれば、2025 年は豚肉生産量の増加に伴い、短期的に飼料用需要の増加が見込まれるものの、2034 年までの長期的な見通しでは、養豚施設の大規模化や防疫水準の向上により、飼料用需要は今後安定的に推移する見込み。その一方で、飼料用大豆粕の減量代替の取り組みが本格的に進み、大豆粕需要は徐々に減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 3.7%増の 112.0 百万トンと、2023/24 年度と並び、史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 4 月の輸入量は 4,637.3 万トンと前年同期（5,004.5 万トン）に比べ 7.3%減。国別には、ブラジル 2,154.9 万トン（46.5%）、米国 2,053.4 万トン（44.3%）、アルゼンチン 198.1 万トン（4.3%）の順で、米国とブラジルを合わせたシェアがおおよそ 9 割となっている。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 4 月号」によれば、流通業者の積極的に買い付けにより、4 月の国内価格は 4,480 元/トンと、前月（4,440 元/トン）から上昇した。

中国国務院関税税則委員会は、4 月 12 日以降、米国的大豆に対して計 135%の追加関税を課していたが、その後の米中共同声明を受け、5 月 14 日から、計 20%の追加関税を課することとなった（詳細は P.8 小麦－中国を参照）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、期首在庫量の増加を受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正されたものの、搾油用需要の増加を受けて、前年度より 0.2%減の 44.9 百万トンと、過去 5 年平均（34.9 百万トン）を上回り、史上 2 番目の見込み。期末在庫率は、前年度より 1.7 ポイント減の 33.7%となる見込み。

大豆－中国

（概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

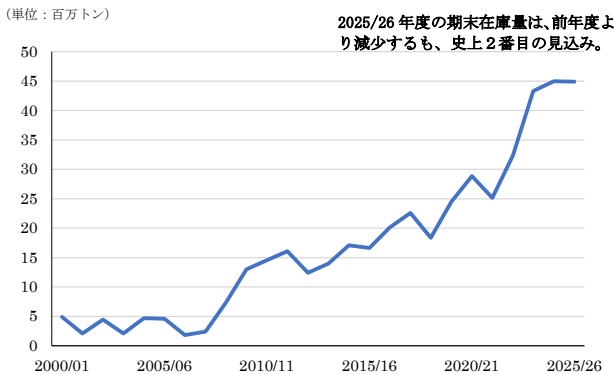
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	(単位：百万トン)			
			2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	20.8	20.7	21.0 (21.1)	-	1.7	
消 費 量	121.8	126.9	133.0 (133.2)	-	4.8	
うち搾油用	99.0	103.0	108.0 (109.8)	-	4.9	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0	
輸 入 量	112.0	108.0	112.0 (108.3)	-	3.7	
期末在庫量	43.3	45.0	44.9 (44.0)	1.0	▲ 0.2	
期末在庫率	35.5%	35.4%	33.7% (33.0%)	0.8	▲ 1.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.47	10.33	10.50 (10.50)	-	1.6	
単収(t/ha)	1.99	2.00	2.00 (2.01)	-	-	
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 June 2025)、 IGC「Grain Market Report」(22 May 2025)						

表 中国における大豆の輸入量及び輸入先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,732.1	73.8	ブラジル	3,098.3	61.9	ブラジル	2,154.9	46.5
米国	2,091.6	20.0	米国	1,595.2	31.9	米国	2,053.4	44.3
アルゼンチン	267.7	2.6	カナダ	149.7	3.0	アルゼンチン	198.1	4.3
カナダ	151.9	1.5	アルゼンチン	65.7	1.3	ウルグアイ	110.6	2.4
ウルグアイ	102.7	1.0	ロシア	54.2	1.1	カナダ	94.0	2.0
その他	128.6	1.2	その他	41.3	0.8	その他	26.3	0.6
合計	10,474.7	100.0	合計	5,004.5	100.0	合計	4,637.3	100.0

資料：中国海関統計のデータをもとに農林水産省にて作成

図 中国における大豆の期末在庫量の推移



資料：USDA「PS&D」(2025.6.12)をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が減少したことを受け、前年度より 1.0%減の 48.5 百万トンの見込み。現在の価格相場はとうもろこしの作付けに有利であるため、多くの農家が大豆からとうもろこしの作付けに切り替えるとみられる。

アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）の週報（2025.6.12、6.19）によれば、6 月 19 日現在、2024/25 年度の実産量の収穫進捗率は 97%と前年同期（99%）を下回っている。1 月に干ばつの被害があったものの、2 月下旬からの降雨によって作柄が改善し、高い単収を記録した。また 5 月中旬に洪水の被害があった主要生産地のブエノスアイレス州では、収穫進捗率は 97%と前年同期（98%）を下回ったものの、収穫された大豆の品質は良好とみられる。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要が増加することから、前年度比 0.8%増の 50.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の減少及び搾油用需要の増加に伴い輸入需要が増加することから、前年度より 20.0%増の 7.2 百万トンの見込み。

2025/26 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出が引き続き堅調に推移することから、前年度より 7.1%増の 4.5 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%の税率が適用されてきたが、1 月 27 日～6 月 30 日まで大豆に 26%、大豆油及び大豆粕に 24.5%へと一時的に引き下げられた。なお、7 月 1 日以降は従来の税率に戻る見込み。

USDA によれば、2025/26 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸入量の増加を受けて、前年度より 2.8%増の 25.5 百万トンと、過去 5 年平均（22.9 百万トン）を上回る見込み。実在庫率は前年度より 0.7 ポイント増の 46.3%となる見込み。

大豆－アルゼンチン

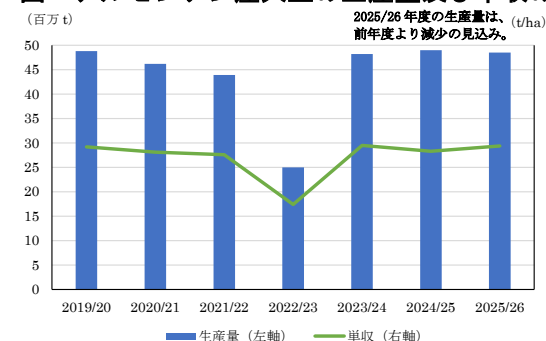
（早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫され、
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.2	49.0	48.5 (50.5)	-	▲ 1.0
消 費 量	43.8	50.1	50.5 (50.5)	-	0.8
うち搾油用	36.6	42.6	43.0 (44.0)	-	0.9
輸 出 量	5.1	4.2	4.5 (4.7)	-	7.1
輸 入 量	7.8	6.0	7.2 (5.4)	-	20.0
期末在庫量	24.1	24.8	25.5 (9.4)	-	2.8
期末在庫率	49.1%	45.6%	46.3% (17.1%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	17.30	16.50 (17.55)	-	▲ 4.6
単収(t/ha)	2.95	2.83	2.94 (2.88)	-	3.9

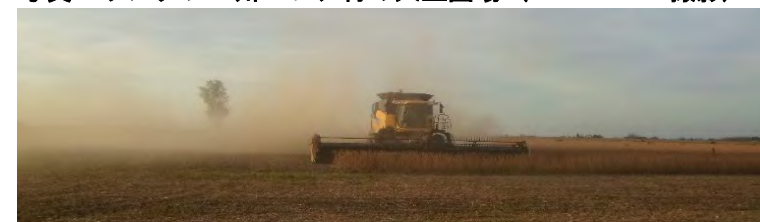
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2025)
IGC「Grain Market Report」(22 May 2025)

図 アルゼンチン産大豆の実産量及び単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2025.6.12)をもとに農林水産省にて作成

写真 サンタフェ州コレア村の大豆圃場 (2025. 5. 21 撮影)



12 月中旬に作付けされた本圃場では、5 月 18 日から収穫を開始。

莢の実入り、重量のいずれも良好で、単収は 3.5t/ha を記録した。

撮影者：José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2025/26年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	25年6月～26年5月	25年9月～26年8月	25年8月～26年7月	25年9月～26年8月
カナダ	25年8月～26年7月			25年8月～26年7月
豪州	25年10月～26年9月		26年3月～27年2月	
EU	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
中国	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月
ロシア	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		25年9月～26年8月
ウクライナ	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
ブラジル		26年3月～27年2月	26年4月～27年3月	25年10月～26年9月
アルゼンチン	25年12月～26年11月	26年3月～27年2月		25年10月～26年9月
タイ			26年1月～12月	
インド	25年4月～26年3月		25年10月～26年9月	
ベトナム			26年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
例えば、2025/26年度は、米国の小麦では2025年6月～2026年5月、ブラジルのとうもろこしでは2026年3月～2027年2月です。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel （ブッシェル） （穀物により異なる）	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

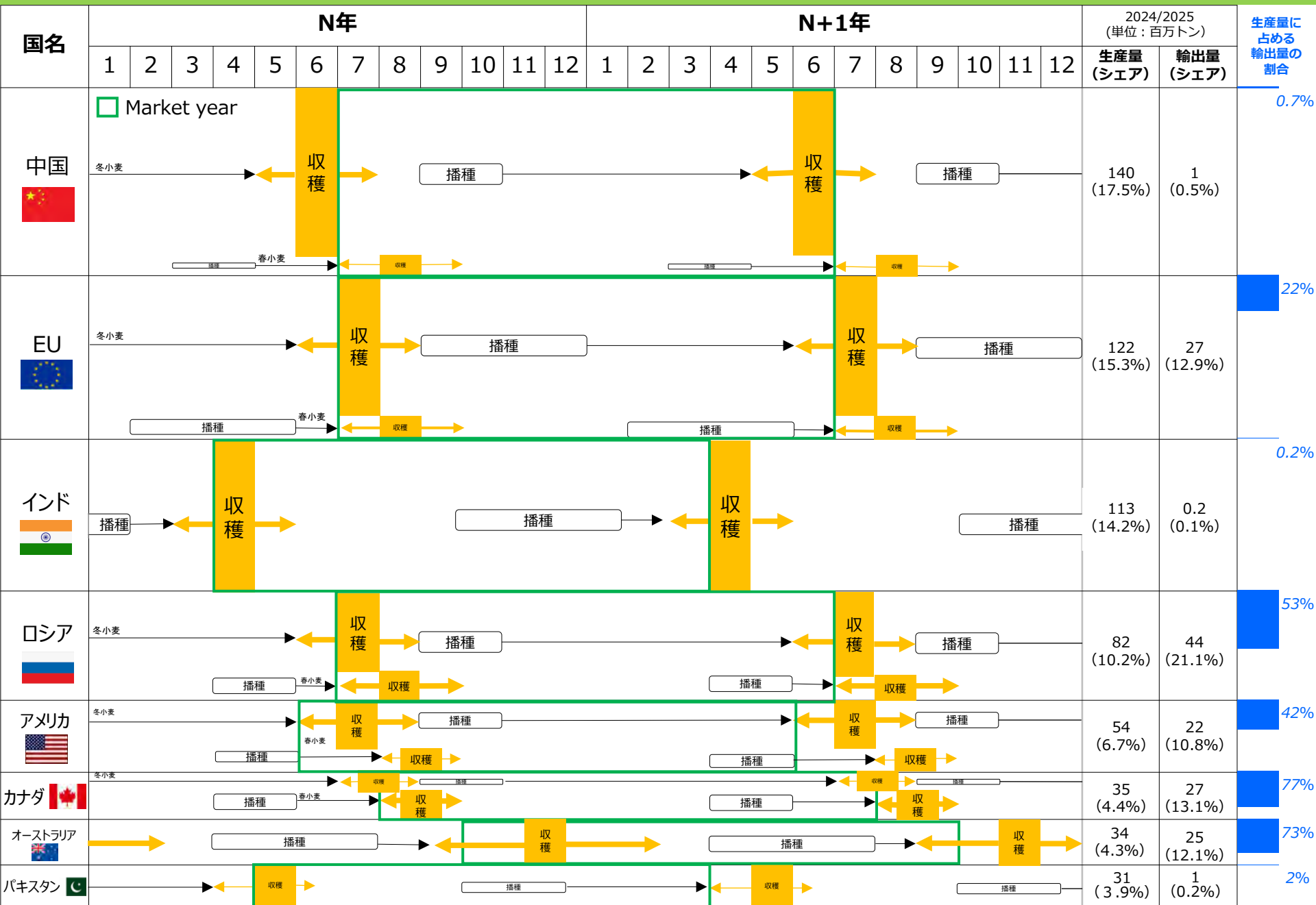
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

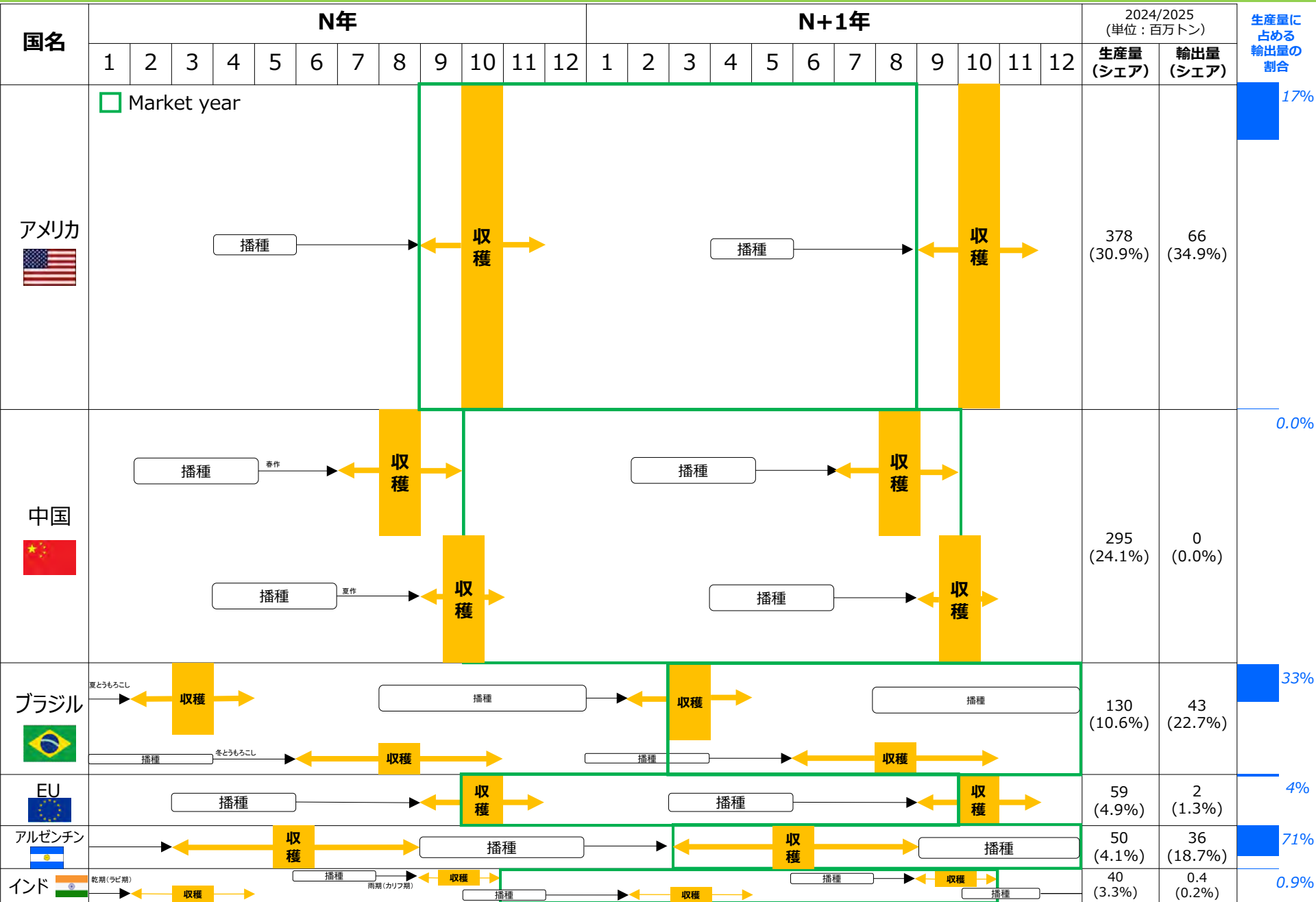


※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、「PS&D」（2025.5） 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他： $\frac{127}{23.6\%}$ $\frac{21}{34.4\%}$

主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

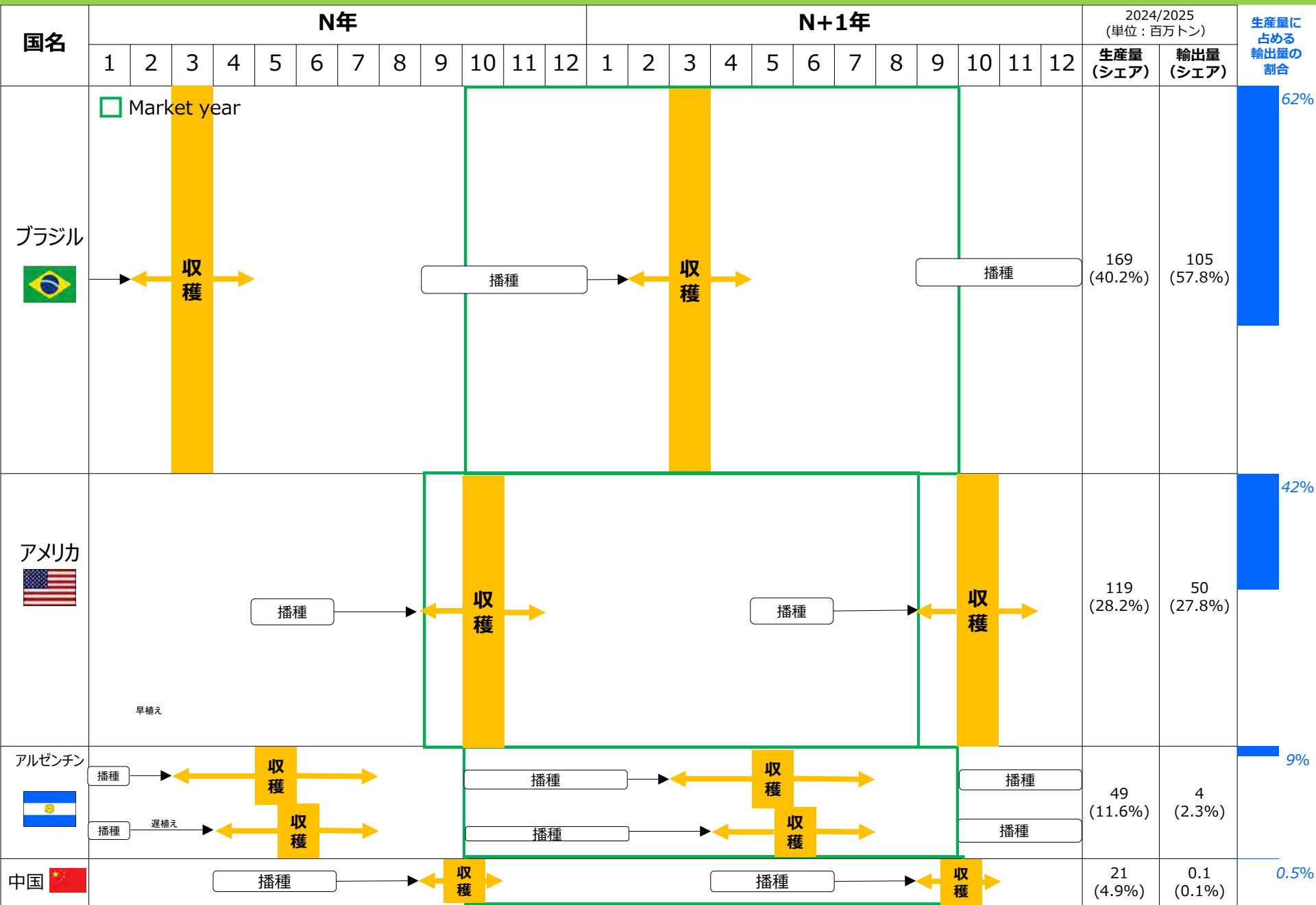
※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」(2025.5) 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：269 (22.1%) 42 (22.2%)

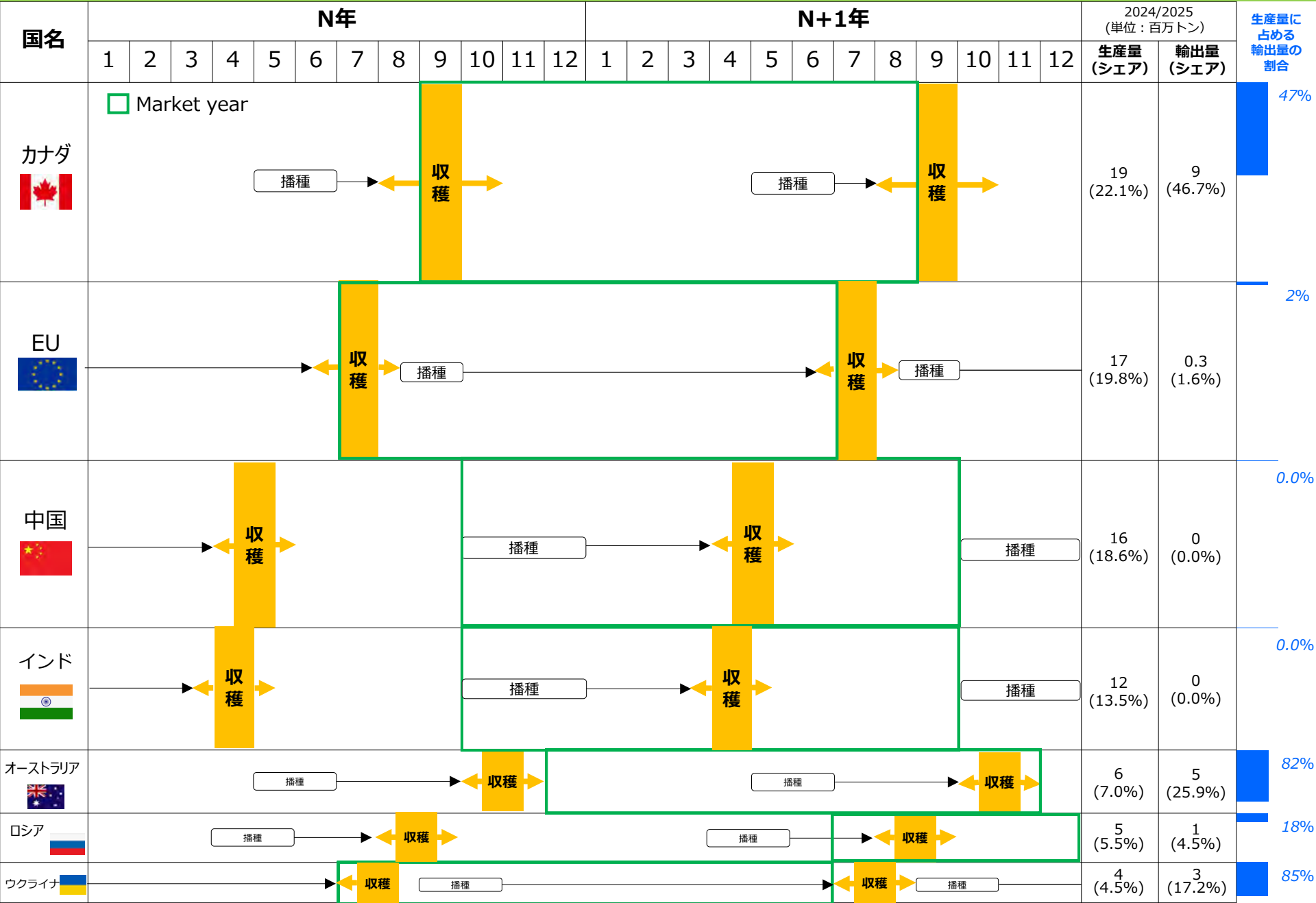
主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2025.5)

注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

その他：(9.1%) (4.1%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2025 年 6 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2025/26 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

<https://www.usda.gov/about-usda/reports-and-data/agency-reports>

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

